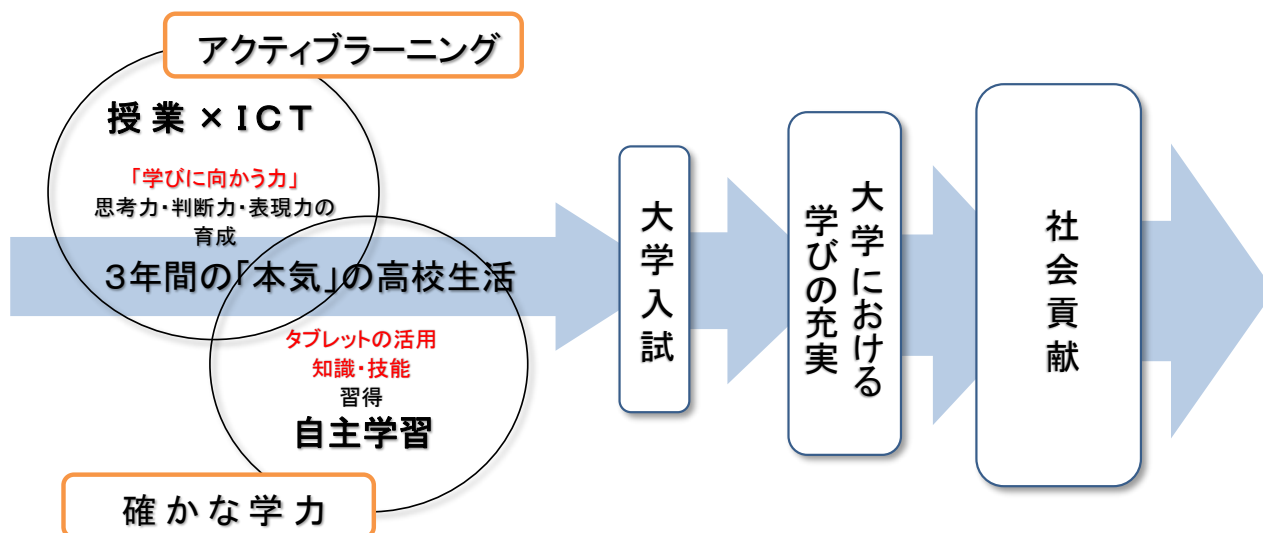


令和6年度科目履修案内 第1学年 目次

		頁
大宮北高校「本気の学習」		1
1年生の学習の指針		2
単位の履修と修得、卒業の認定について		4
令和4年度入学生教育課程表（普通科・理数科）		5
<各教科より>	コース・科	
1 国語科		7
	現代の国語	8-1
	言語文化	8-2
	観点別評価	9
2 地理歴史科		11
	地理総合	12
	観点別評価	14
3 公民科		15
	公共	17
	観点別評価	18
4 数学		19
	数学Ⅰ、数学A	23
	SS理数数学Ⅰ	24
	観点別評価	26
5 理科		28
	化学基礎	28
	生物基礎	30
	SS理数化学	32
	SS理数生物	34
	観点別評価	36
6 保健体育		39
	体育	39
	保健	43
	観点別評価	45
7 芸術科		47
	音楽Ⅰ	47
	観点別評価	49
	美術Ⅰ	50
	観点別評価	52
	書道Ⅰ	53
	観点別評価	55
8 英語科		56
	英語コミュニケーションⅠ	58
	論理・表現Ⅰ	59
	観点別評価	61
9 家庭科		62
	家庭基礎	62
	観点別評価	:65
10 STEAMS TIME Ⅰ		66

大宮北高校「本気の学習」

教育改革の先進校で学ぶ喜び



北高生は自らが自己の高校生活に「本気」で取り組み成長します。

どんな「本気」に取り組み、自分の高校生活を豊かにしますか？

多彩な学校生活には「本気の部活動」「本気の学校行事」もあります。

「本気の学習」を大切に、「本気の部活動」「本気の学校行事」を生かしましょう。

大宮北高校は皆さんの「本気」を応援します。

授 業

大宮北高校の授業は「学問の魅力」を伝えます。

大学入試に対する表面的なノウハウだけを伝えるものではありません。

自ら積極的に発信し、学ぶことの楽しさを感じてください。

授業を中心とした予習・復習のサイクルを確立することで「学びに向かう力」が育ちます。

希望の大学に進学できる、大学入学後にも生きる「力」がつかます。

ICTを活用した「アクティブラーニング」→「思考力」「判断力」「表現力」の育成

「脱、教え込み授業」→「発信力」を育て、「学びに向かう力」「人間性」を滋養します。

自主学習

大宮北高校では自ら学び、学問を深める力を必要と考えています。

社会に貢献できる人材となるために、自らの「志」に向かった努力が必要です。

通学時間や部活動等によって個々の時間の使い方は変わります。

個人タブレットをどのように活用するか。受信データをどう活用するかは個人に任せられます。

3年間を見据えた学習計画、各学年における学習計画をもとに、

個々の日々の学習計画を構築していきましょう。

苦手科目も克服していけるようにバランス良く時間を確保することが大切となります。

学習計画は担任の先生等との面談を通して確認していきましょう。

理数科・普通科併置による充実した学習システム→互いの「知的好奇心」を刺激・成長

海外交流事業、海外修学旅行等→国際社会に通用する視野を持つグローバル人材の育成

1学年の学習の指針

基本的な姿勢

1年生は、学業面においても早く高校生になることが第一の目標です。次に、学業は当然として部活動・学校行事にも積極的に参加し、多くの人と接することを通して視野を広げることが第二の目標です。

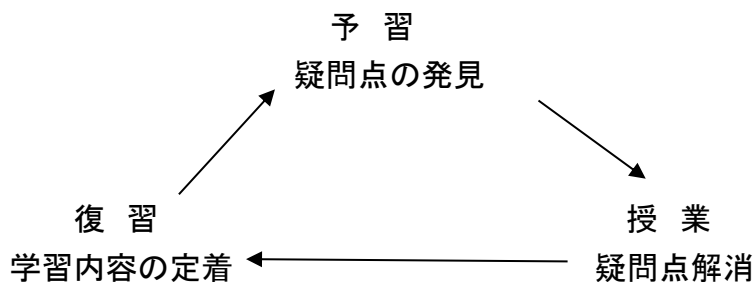
最後に、職業について学び、将来どのような職業に就きたいのかを考えることが第三の目標です。2学年では、その職業に就くための具体的な進路方向について調べます。

その対策として

- ① 将来の職業についてしっかりした意識を持つ
- ② 充実した高校生活を過ごす → 日々の自分を振り返る
- ③ 定期考査毎に目標を定めて頑張る
- ④ 得意科目をつくる → (例) 英語であれば 英検2級以上の取得
- ⑤ 自発的な学習習慣の確立 → 1日あたり2時間の学習
学習の『黄金の三角形』の確立
- ⑥ 保護者や友達、先生などに相談し、3年間を見通した学習計画を立てる。

学習の目標

- ① 予習・復習の習慣をつける。高校の学習は、かなり高度であることを早期に認識する。
予習 → 授業 → 復習 の『黄金の三角形』の確立



- ② 定期考査毎に、綿密な学習計画を立て実行し、結果について検討する。
- ③ 学習について、身近な目標を持つ。
- ④ 模擬試験を受け、弱点を理解しその補強に努める。
必要に応じて中学校レベルの復習をする。

方 策 …個々の努力目標 学習のPDCAサイクルの確立

- ① 定期考査を目安に Plan (計画) Do (実行) Check(評価) Action(改善)を繰り返し、学習習慣を定着させ、学力の向上を目指す。
- ② 模擬試験を積極的に受け、全国における自分の位置を把握し、志望校合格への学力差を確認する。→ STEP UP 目標の明確化
- ③ モチベーションを維持するため、具体的な目標をもつ
例えば、クラスで10位以内 数学はクラスで5番以内など身近なものでよい。
- ④ 3年間のカリキュラムについて理解を深める。…進路研究の勧め
- ⑤ 学習に対するクラスでの雰囲気作り 朝学習の時間を大切にす思いやりと向上心
→ 自信ができ、更なる飛躍が期待できる。→集団による学力 UP
- ⑥ 英単語を寝る20分前、又は通学時間等を利用して暗記する。
- ⑦ ニュースに関心を持つ。社会について最新の情報を得ることは大切です。
- ⑧ 休日の学習時間を確保する。…普段できない部分をカバーする。
- ⑨ 自習時間など、隙間時間の積極的な利用。

学習計画

いつ、どこで、どのように学ぶか？

授業の受け方、朝学習、勉強マラソン、自習室を活用、積極的に質問に行く…

第1学期 大宮北の学びに触れる

スタートダッシュを上手くする。→ 一日でも早く高校生になる。

初めての定期考査、模擬試験、自分を知る。

志望校と受験科目について研究をする。

3年間のカリキュラム、これからの選択肢について理解を深める。

ST I を生かし、学びの幅を広げる。

第2学期 課題研究の学びに触れる

模擬試験の結果を吟味する。→全国レベルとの確認→新たな学習意欲

ST II、サイエンスABの決定…新たな具体的目標の設定

課題研究の方法を学ぶ。

第3学期 発信力の向上

模擬試験の結果を吟味する。→1年11月との比較

自分の学び方、学力を客観的に把握して対策を練る。

自己の学びについて発信する。

他者の学びを知り評価する。

単位の履修と修得、卒業の認定

(1) 単位とは

各教科・科目の学習において、高等学校ではその学習量を表す基準を「単位」といいます。1単位とは、ある科目について1週間あたり1授業時間（50分）を1年間学習した学習量です。言い換えれば、1週間に授業が2時間ある科目は、1年間で2単位ということです。例えば「国語総合」は5単位ですから、1週間に授業が5時間あるということです。

(2) 「単位を取る」とは

高等学校では、学校に登校しているというだけでなく、授業にきちんと出席し（履修）、しっかり勉強して学習した内容を身につけなければ（修得）、卒業できません。言い換えれば、卒業するためには、必要な「単位」を「履修」し、「修得」しなければなりません。これが、いわゆる「単位を取る」ということです。

(3) 履修とは

授業にきちんと出席し、学習に励むことを「履修」といいます。出席状況が良好なときに「履修が認定」されます。履修が認定されないと、どんなにテストの点数が良くても、単位は取れません。本校では、ある科目の欠課時数（授業の欠席時間数）が**標準授業時数（35×単位数）の3分の1以下**のとき、その科目の単位を履修したと認定します。**年度末に1科目でも履修が認定されない場合、進級または卒業はできず原級留め置き**（いわゆる「留年」）となり、再び同じ学年を繰り返すことになります。

各学期においては1学期を11週、2学期を14週、3学期を10週として、**各学期の標準授業時数（週×単位数）**を算出します。欠課時数が多く、各学期の標準授業時数の3分の1を超えてしまう場合、その学期の評価は原則保留となります。

(4) 修得とは

ある科目の学習内容を身につけることを「修得」といいます。履修が認定された科目について、学習状況が良好である場合に、単位の「修得が認定」されます。履修が認定されても、修得が認定されないと、単位を取ったことにはなりません。ある科目について**評定（学年末の成績）が5段階の「2」以上のとき**、その科目の単位を修得したと認定します。評定が「1」だったときは欠点（いわゆる「赤点」）となり、その科目の単位の修得は認定されません。

1, 2学期の通知表には**評価（学期の成績）**が5段階で示されます。評価が「1」であることは、学年末評定が「1」になる可能性が高いと判断され、特別補習等の対象者となります。

(5) 進級・卒業の認定条件

本校では、学年ごとに学習する科目が定められており、それらの科目（「総合的な探究の時間」を含む）のすべての単位（学校によっては一定基準以上の単位）を取り、特別活動を履修して成果が満足できると認められる場合に、その学年の「修了」が認められ、次の学年に「進級」します。こうして進級を繰り返して、最終学年の修了が認められると「卒業」できるわけです。

必要な単位が取れずに学年の修了が認められない場合には、原級留め置きとなり、もう一度その学年の科目をすべてやり直さなければなりません。この場合、履修や修得が認定されるはずの他の科目も、すべて認定されません。

(6) 課題考査、定期考査

課題考査、中間考査、期末考査は学習状況を確認する大切なテストです。欠席をしないように体調管理をしっかりしましょう。やむを得ず欠席する場合は「**考査欠席届け**」の提出が必要になります。

様式2-1(令和6年度入学生用)

令和6年度 教育課程表(理数科)

各教科・科目等		標準 単位	1 年	2 年	3 年	計	
教科	科目						
各学科に共通する 各教科・科目	国語	現代の国語	2	2		11	
		言語文化	2	2			
		論理国語	4		2		2
		古典探究	4		2		1
	地理歴史	地理総合	2	2		7	
		歴史総合	2		2		
		地理探究	3				3
	公民	公民	2	2		2	
	保健体育	体育	7~8	2	3	2	9
		保健	2	1	1		
	芸術	音楽 I	2	● 2			2
		美術 I	2	● 2			
		書道 I	2	● 2			
		(STEAMS Time II 音楽)			(2)		
		(STEAMS Time II 美術)			(2)		
	外国語	英語コミュニケーション I	3	3			16
		英語コミュニケーション II	4		3		
英語コミュニケーション III		4			4		
論理・表現 I		2	2				
論理・表現 II		2		2			
論理・表現 III		2			2		
家庭		家庭基礎	2	2		2	
主として専門学科において開設される各教科・科目	S S 理 数	SS 理数数学 I	5~7	6		47	
		SS 理数数学 II	7~9		6		
		SS 理数数学特論	4~6				7
		SS 理数生物	6~8	2	2		● 5
		SS 理数化学	6~8	2	2		5
		SS 理数物理	6~8		4		● 5
		STEAMS Time I	2	2			
		BEST CLaSS	1		1		
		STEAMS Time II	2		2		
		STEAMS Time III	2				1
小計			32	32	32	96	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	3	
総合的な探究の時間		3~6	1	1	1	3	
合計 (週当たりの授業時数)			33 (34)	33 (34)	33 (34)	99 (102)	
備 考		1年 ●印から1科目選択 3年 ●印から1科目選択 1年 「SS理数数学 I」 SSH指定校として「理数数学 I」(6単位)の代替 2年 「SS理数数学 II」 SSH指定校として「理数数学 II」(6単位)の代替 3年 「SS理数数学特論」 SSH指定校として「理数数学特論」(7単位)の代替 1, 2, 3年 「SS理数生物」 SSH指定校として「理数生物」(9単位)の代替 1, 2, 3年 「SS理数化学」 SSH指定校として「理数化学」(9単位)の代替 2, 3学年 「SS理数物理」 SSH指定校として「理数物理」(9単位)の代替 1年 「STEAMS Time I」 SSH指定校として情報 I (2単位)の代替 2年 「STEAMS Time II」 SSH指定校として理数探究(2単位)の代替 2年 「BEST CLaSS」 「英語コミュニケーション II」を1単位分減単				・卒業までに履修させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計99単位 ・卒業までに修得させる各教科・科目及び総合的な学習の時間の単位数の計99単位	

様式1-1(令和6年度入学生用)

令和6年度 教育課程表(普通科)

各教科・科目等		標準 単位	1 年	2 年	3 年			計	
					A 1	A 2	B		
教科	科目								
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現代の国語	2	2				12~18	
		言語文化	2	2					
		論理国語	4		2	3	3		2
		古典探究	4		3	3	4		1
		文学国語	4			3			
	地 理 歴 史	地理総合	2	2					5~14
		歴史総合	2		3				
		日本史探究	3			●5	●5		
		世界史探究	3			●5	●5		
		地理探究	3				○4	○3	
	公 民	公共倫理	2	2					2~6
		政治・経済	2			○2	○2		
		(学)公共探究	3			2	○2		
			3					○3	
	数 学	数学Ⅰ	3	3					11~18
		数学Ⅱ	4		4				
		数学Ⅲ	3					4	
		数学A	2	2					
		数学B	2		2				
		数学C	2					3	
		(学)数学探究	2~4			○2	4		
	理 科	物理基礎	2		2				10~20
		物理	4					●5	
		化学基礎	2	2					
		化学	4					5	
		生物基礎	2	2					
		生物	4					●5	
		地学基礎	2		○2				
		(学)サイエンス化学	2		○2				
		(学)サイエンス物理	2		●2				
		(学)サイエンス生物	2		●2				
	保 健 体 育	体育	7~8	3	3	2	2	2	10
		保健	2	1	1				
	芸 術	音楽Ⅰ	2	●2					2
		美術Ⅰ	2	●2					
		書道Ⅰ	2	●2					
		(STEAMS Time II 音楽)			(2)				
		(STEAMS Time II 美術)			(2)				
	外 国 語	英語コミュニケーションⅠ	3	3					16~19
		英語コミュニケーションⅡ	4		3				
英語コミュニケーションⅢ		4			4	4	4		
論理・表現Ⅰ		2	2						
論理・表現Ⅱ		2		2					
論理・表現Ⅲ		2			2	2	2		
(学)英語特講					3				
家庭	家庭基礎	2	2				2		
主 として 専 門 学 科 に お い て 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	家庭	保育基礎	2~6			▲2		0~2	
	音楽	演奏研究	2~6			▲2			
	美術	クラフト・デザイン	2~10			▲2			
	書道	実用の書 2608	2~4			▲2			
	体育	スポーツⅡ	2~12			▲2			
	SS 理 数	STEAMS Time I	2	2					
BEST CLaSS		1		1					
STEAMS Time II		2		2					
STEAMS Time III		1			1	1	1		
小計			32	32	32	32	32	96	
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1	1	1	3	
総合的な探究の時間		3~6	1	1	1	1	1	3	
合計			33	33	33	33	33	99	
(週当たりの授業時数)			(34)	(34)	(34)	(34)	(34)	(102)	
備 考		<p>1年 ●印から1科目選択 2年 ●、○印からそれぞれ1科目選択 3年 (A1) ●、○、▲印からそれぞれ1科目選択。 (A2) ●、▲印からそれぞれ1科目選択 ○印の選択は以下の(ア)または(イ)を選択する。 (ア)地理探究を選択。(イ)倫理、政治・経済を選択。 (B) ●、○印からそれぞれ1科目選択。</p> <p>1年 「STEAMS Time I」 SSH指定校として情報Ⅰ(2単位)の代替 2年 「STEAMS Time II」 SSH指定校として課題研究の内容に応じて選択 理数探究、音楽Ⅱ、美術Ⅱ、書道Ⅱ(2単位)の代替 2年 「BEST CLaSS」 「英語コミュニケーションⅡ」を1単位分減単</p>						<p>・卒業までに履修させる各教科・科目及び総合的な探究の時間の単位数の計99単位</p> <p>・卒業までに修得させる各教科・科目及び総合的な探究の時間の単位数の計99単位</p>	

1 国語科

◆国語という教科 … 日常の積み重ねを大切に

教科の学習を通して、生涯にわたる社会生活において他者との関わりにおける伝え合う力や、思考力や想像力を身につけられることが最終的な目標となります。そのためにも、多くの作品に触れ、自分なりの意見をもち、他人の考えからヒントをもらい、さらに考えを深められるように学習していきましょう。

国語の学習は、読解力・表現力だけではなく感性を磨き、思考力を高め、豊かな感受性を育むことにつながります。日頃から、語彙力を豊かにし、いろいろな文章に触れ、人の話に耳を傾け、自らも文章を書き、発言していただくことが大切です。

また、そのためにも語彙や文法などの基礎知識が重要となってきます。正しい意味、言葉の使い方を身につけ、自在に扱えるようになることを目指しましょう。

◆1学年の科目

<現代の国語>

「現代の国語」で扱うのは、主に《論理的な文章》や《実用的な文章》です。ただ文章を読んでいくのではなく、話し合い活動や書く活動を通して、自分の考えを深めたり他者の意見から多面的に物事を捉えられる力を身につけたりしていきます。そのためにも、まずは自分の意見をしっかりとつこと。また、文章を正確に読み取る語彙力や文法力が必要となります。

他の教科にも影響する、「論理的に考える力」や「実社会に必要な知識」を身につけ、養っていく科目です。

<言語文化>

「言語文化」で扱うのは、《近現代の小説》《古文》《漢文》の作品です。範囲は広く、初めて本格的に学習する古典の内容もここで扱います。日本語の言語文化を学んでいきます。言語文化でも「自分がどう感じたのか」を表現することが重要です。そのためにも、正確に文章を読み取る力も求められます。そして、古典作品では現代の日本語とは違う単語や文法を学ぶ必要があります。

そうした学習を通して、日本の言語文化に対する理解を深めていく科目です。

◆「古典」の学習について

<古文の学習>

日本における、近代よりも前の文学作品を「古文」といいます。ジャンルは詩歌や物語、随想など多岐にわたります。一番の特徴は「言葉の違い」です。現代の言葉遣いからイメージできる単語もあれば、意味の異なる単語もあります。また、文法も現代の日本語とは異なります。作品の世界を味わい、理解を深めていくためにも「単語」と「文法」のマスターがとても重要です。『古文単語 330』や『新しい古典文法』を活用し、正しい知識を身につけましょう。

<漢文の学習>

「漢文」は中国における古典作品です。高校の授業で扱う作品は限られていますが、詩歌や物語など様々な作品に触れます。中国の言葉で書かれているので、「句法」や「語彙」など新しく学ばなくてはならないことがたくさんあります。『漢文必携』や『総合国語便覧』を活用し、古文同様に正しい知識を身につけましょう。

◆課題テスト【2年までの予定】

* 課題テスト

	春休み明け	夏休み明け	冬休み明け
1年	/	○古典文法 ●漢文	○古典文法 ○古文単語 ●漢文
2年	○古典文法 ●漢文	○古典文法 ●漢文 ●文学史 [上代・古代]	○古典文法 ●漢文 ●文学史 [中世・近世]

- ◎「古典文法」は『新しい古典文法』より出題する。
- ◎「漢文」は『漢文必携』より出題する。
- ◎「古文単語」は『古文単語 330』より出題する。
- ◎「文学史」については『総合国語便覧』を使用して学習する。
- ◎〈○〉〈●〉に「現代文単語」と「漢字」を加えて計 100 点となるように出題をする。
「現代文単語」は『読解を深める現代文単語』より出題する。
「漢字」は『入試漢字コア 2800』をより出題する。

◆週末課題について

『プロGRESS 現代の国語・言語文化 総演習』の2冊を活用して、週末に課題を提示します。実施の時期や範囲は授業内で説明があります。大学入試に向けて、問題を解く力を身につけていきます。

令和6年度 年間学習計画表

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
現代の国語		2	精選 現代の国語 [東京書籍]	『新訂総合国語便覧』(第一学習社) 『頻出入試漢字コア2800』(桐原書店) 『読解を深める現代文単語』(桐原書店)
【到達目標】		①実社会に必要な国語の知識や技能を身につける。 ②論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 ③言葉がもつ価値への認識を深めながら、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
【学習上の留意点】		①言葉の働きを理解し、語彙や漢字を効果的に活用できるようにする。 ②目的や場に応じて実社会の中から適切な話題を決め、自分の考えを的確に伝え、論点を共有しながら考えを広げ、深められるようにする。 ③積極的に読書に励み、自己の感じ方・考え方を深めるとともに、語彙力を増やす。 ④小テスト・課題テスト等を利用し、学習内容を定着させる。		
月	テスト	進度(単元)		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	○読む 「まだ知らない自分に出会う」 ○書く 手順を整理して正確に伝える		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
6月 ～ 7月	1学期 期末	○読む 「今ここにある無数の未知」 ○話す・聞く 発想を広げて課題を見つける		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
9月 ～ 10月	2学期 中間	○読む 「言葉は世界を切り分ける」 ○書く 調べた情報を説明資料にまとめる		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
11月 ～ 12月	2学期 期末	○読む 「真の自立とは」 ○話す・聞く 情報を整理しながら話し合う		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。
1月 ～ 3月	3学期 学年末	○読む 「白」 ○書く 論証してレポートを書く		<input type="checkbox"/> 難語句の理解ができたか。 <input type="checkbox"/> 指示語や接続詞に注意し、文脈が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構成が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 筆者の主張が理解できたか。 <input type="checkbox"/> 自分の考えを持つことができたか。 <input type="checkbox"/> 学習活動に意欲的に取り組めたか。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

国語
現代の国語

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。	小テスト 課題考査 定期考査等	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	定期考査 行動観察等	該当問題80%以上程度の得点率 自己が思考・判断・表現したことについての成果物・発表力が優れている。	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 自己が思考・判断・表現したことについての成果物・発表力が標準的である。	該当問題40%未満の得点率 自己が思考・判断・表現したことについての成果物・発表力が乏しい。
学習主体的に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	週末課題 定期考査 行動観察等	週末課題への取り組みが優れている。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	週末課題への取り組みが標準的である。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	週末課題に取り組む姿勢が乏しい。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

国語
言語文化

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	小テスト 課題考査 定期考査等	該当問題80%以上程度の得点率	該当問題40%以上80%未満程度の得点率	該当問題40%未満程度の得点率
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	定期考査 行動観察等	該当問題80%以上程度の得点率 自己が思考・判断・表現したことについての成果物・発表力が優れている。	該当問題40%以上80%未満程度の得点率 自己が思考・判断・表現したことについての成果物・発表力が標準的である。	該当問題40%未満の得点率 自己が思考・判断・表現したことについての成果物・発表力が乏しい。
主体的に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	週末課題 定期考査 行動観察等	週末課題への取り組みが優れている。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	週末課題への取り組みが標準的である。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	週末課題に取り組む姿勢が乏しい。 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

《地理総合》

○「地理学」とはどのような学問なのか

「地理学」について、『ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典』では「地表空間における特定地域の自然、人文の諸事象を総合的に把握し、地域的特色を明らかにしようとする学問。」と定義づけられています。すなわち、地球上で起こっている様々な事象について、文理の枠組みにとらわれることなく、総合的な理解を目指している学問であるといえるのではないのでしょうか。

「地理学」には大きく2つのアプローチ方法があります。皆さんが受講する「地理総合」では、主に「系統地理学」的なアプローチで学習を進めていきます。この「系統地理学」は、地理的条件と人類との一般法則を導き出すことを目指す学問分野です。具体的には、地形や気象などの自然現象について考える「自然地理学」と、産業や生活文化などの人間が形成した地表の現象について考える「人文地理学」から構成されています。ちなみに、もう1つのアプローチ方法は「地誌学」といい、特定の地域の状況を体系的に記述することを目指す学問分野です。

○地理を学習する意義

高校生が地理を学習する意義はどこにあるのでしょうか。よく言われるのは「一般教養として知っておくべき」という理由です。もちろん、地理は一般教養としての側面を持っています。知っていることが多い方が、世界がより鮮やかに見えることもあるでしょう。他には「受験科目として必要」という理由を挙げる人も多いと思われます。この理由は、地理を学習する理由として非常に現実的なものです。

しかし、それ以上に地理を学習する大きな意義があります。それは、「現代社会を見る目」を養うことができるということです。地理を学習すると、地形や気象、産業や生活文化など地球上で起こっている事象を分析するために必要な視点を多く獲得できます。18歳で成人、そして有権者になる前に、私たちの暮らす社会について深い考察ができるように地理を学んでいきましょう。

○授業の受け方

「地理総合」の授業は週に2回程度しかありません。1回1回の授業を大切にしてください。もちろん各自の予習や復習も必要ですが、「地理総合」を学習していくうえで核となってくるのは日々の授業です。何を学習するのかという目的意識をもって、毎回の授業に臨んでください。

教材（教科書、地図帳、資料集）は全クラス共通です。授業中いつでも使えるように、各自準備をしてください。ただし、授業の形式は担当の先生によって異なる部分もあります。例えば、配布したプリントを用いて授業を行う先生がいる一方で、各自が用意したノートを用いて授業を行う先生もいるといった具合です。各クラス授業担当の先生に確認をしてください。

○家庭学習の進め方

まずは、「予習—授業—復習」の「黄金サイクル」を確立してください。これは地歴公民科に限らず、全教科にいえることです。授業を核とした学習スタイルを1年生のうちから確立しておくことは、2年後の大学入試に向けても重要となってきます。

特に、地歴公民科においては「復習」を大切にしてください。教科書、地図帳、資料集など、有効な教材が皆さんの手元にあるはずですが、教材は授業で指示された時にしか開かない、というのではもったいないです。特に教科書は本文を読むだけでなく、地図や写真、統計データなど様々な資料にも目を通し、教材を徹底的に使い込みましょう。

令和6年度 年間学習計画表

科目名等	単位数	教科書名	副教材等		
地理総合	2	地理総合 [二宮書店]	新編フォトグラフィア地理図説2022 [とうほう]		
【到達目標】	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●【知識】地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。 ●【技能】地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域など、概念などを活用して多面的・多角的に考察、地理的な課題の解決に向けて構想、考察、構想したことを効果的に説明、それらを基に議論する。 <p>【学びに向かう力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。 ●多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについて自覚する。 				
月	テスト	進度（単元）	【観点別評価】		
			【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【学びに向かう力】
4月～5月	1学期中間	第1章 1 球面上の世界 2 世界からみた日本の位置と領域 3 国内や国家間の結びつき 4 暮らしのなかの地図とGIS	<ul style="list-style-type: none"> ●現代世界の地域成を示した様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結びつきなどについて理解できる。 ●日常生活の中で見られる様々な地図の読図などを基に、地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解できる。 ●現代世界の様々な地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結びつきなどを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ●地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 	諸活動に対して、積極的に取り組み、よりよい社会の実現を視野に課題に主体的に追究、解決しようとしてきたか。
6月～7月	1学期期末	第2章 1 地形と生活文化 2 気候と生活文化 3 産業と生活文化 4 宗教・言語と生活文化	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解できる。 ●世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 	
9月～10月	2学期中間	第3章 1 経済発展と生活文化の変化（東アジア） 2 宗教の多様性と生活文化（ASEAN諸国） 3 水の恵みと生活文化（南アジア） 4 イスラーム社会の多様性と生活文化（イスラーム圏） 5 多様な気候と生活文化（アフリカ）	<ul style="list-style-type: none"> ●世界の人々の特色ある生活文化を基に、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性などについて理解できる。 		
11月～12月	2学期期末	6 経済統合による生活文化の変化（EUと周辺諸国） 7 寒冷な気候と生活文化（ロシア） 8 グローバル化による生活文化の変化（アメリカ・カナダ） 9 土地開発による生活文化の形成（ラテンアメリカ） 10 植民と移民による生活文化の形成（オセアニア）			

<p>1月 ～ 2月</p>	<p>学 年</p>	<p>第4章 1 地球環境問題 2 資源・エネルギー問題 3 人口・食料問題 4 居住・都市問題 第5章 1 日本の自然環境と防災 2 生活圏の諸課題と地域調査</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界各地で見られる地球環境問題,資源・エネルギー問題,人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に,地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。また,地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取組や国際協力が必要であることなどについて理解する。 ● 我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に,地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに,自然災害の規模や頻度,地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 ● 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について,その情報を収集し,読み取り,まとめる地理的スキルを身に付ける。 ● 生活圏の調査を基に,地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 世界各地で見られる地球環境問題,資源・エネルギー問題,人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について,地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して,主題を設定し,現状や要因,解決の方向性などを多面的・多角的に考察し,表現することができる。 ● 地域性を踏まえた防災について,自然及び社会的条件との関わり,地域の共通点や差異,持続可能な地域づくりなどに着目して,主題を設定し,自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し,表現することができる。 ● 生活圏の地理的な課題について,生活圏内や生活圏外との結び付き,地域の成り立ちや変容,持続可能な地域づくりなどに着目して,主題を設定し,地図や地理情報システムを活用し,課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察,構想し,表現できる。
------------------------	------------	--	--	--

観点別評価ルーブリック

教科 地理歴史
科目 地理総合

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<p>【知識】地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する。</p> <p>【技能】地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	講義型授業 対話型授業 調べ学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
思考・判断・表現	<p>【着目】地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概念などを活用して多面的・多角的に考察する。 ・地理的な課題の解決に向けて構想する。 ・考察、構想したことを効果的に説明する。 ・それらを基に議論する。 	考察する学習 課題解決学習 説明する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
学習主体に取的に取り組む態度	<p>地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。</p> <p>多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚する。</p>	講義型授業 対話型授業 調べ学習 考察する学習 課題解決学習 説明する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率

<公共>

1. はじめに ～正解のない世界で、自分なりの「答え」を考えてゆく～

民法改正により、2022年4月から18歳以上が成年になりました。これは大人として扱われる、親の親権に服さなくなるわけで、その結果自分一人でスマホや自動車を買うクレジットの契約をしたり、住む場所を決めたりできるようになるということです。これより先に、改正された(2014年)国民投票法や公職選挙法の改正(2015年)により憲法改正の国民投票や選挙においては18歳以上が参加できるようになっていました。(ちなみに酒・たばこ・ギャンブルの類は今まで通り20歳以上からですよ。)

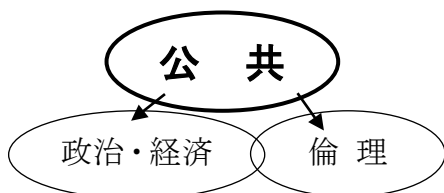
少子高齢化が進むわが国ですが、「大人」として社会に参加する層は広がったのです。高校生となった皆さんは卒業後すぐに成年となり、在学中に18歳に達する人もいるでしょう。日本では中学校卒業後は約98%の人が高校へ進学します。高校卒業後の進路は就職、大学、専門学校など様々となりますが、その生活や行動は「社会人」としてのものになるわけです。「社会」は複数の人が共に生活するまとまりです。その中で自分の考えをもち意見をまとめ、適切に表明し行動することが、将来に生きる若者に期待されています。自分の「公共」の場での言動が問われていくのです。

公共の場としての典型は国や地方自治体の政治や経済の活動でしょう。広く考えればクラスや自宅の近所、部活動や委員会などの「(複数の人間がかかわるとい意味で)社会」も公共性をもつ場だとも言えます。本校に入学したみなさんであれば、「社会」が様々な問題を抱えていることをいろいろなところから見聞きしていませんでしょうか。日本であれば、世界一の高齢社会—それに対応する年金・医療などの社会保障政策、感染症対策、温暖化への取り組み、原子力発電所の問題、民族や宗教対立、LGBTQの権利…。そうした問題を一人ひとりが考え、調査・確認をし、意見を出し合い、着地点を考察する。数学や科学のように決まった答えがないこともあるし、これが正しいとはいえないケースもあります。正解のない世界で、それでも自分なりの「答え」を考えていく—これからの社会を生きる全ての人に必要な科目とも言えます。

人間や社会について幅広く全体を見渡す「モノの見方、考え方」は他の受験科目や小論文にも役に立つはず。社会に出たら「受験科目ではなかったの…」という言い訳は通用しません。TVやインターネットといった周りの雰囲気流されずに、自分の視点をしっかり持って、主体的に物事を判断できるような社会人になって下さい。

2. 「公民科」って何だろう？

中学校の「社会科」は地理・歴史・公民分野がありました。高校になると、「地理歴史科」と「公民科」という教科になります。公民科は「公共」・「政治・経済」・「倫理」という科目に分かれます。左下の図のようなイメージです。



1年生では「公共」(全員必修)

3年生では「政治・経済」(A1コースで必修、A2コースで選択)

「倫理」(A1・A2コースで選択)

1年生で学習する「公共」は、青年期、政治分野を中心に展開していきます。3年生で学ぶ「倫理」や「政治・経済」と重複する分野や、歴史と関わることもあります。「政治・経済」では経済分野を中心に学習する予定です。「倫理」では青年期の心理や西洋・東洋の思想などです。しかし、3年生の「倫理」、「政治・経済」では、「公共」で学習できなかった分野を中心に重複しないように授業を行う予定です。年度によって、進度の差が出る場合もあるので、その場合は調整します。

3. 学習方法について

①「予習なのか、復習なのか、それが問題だ」

2単位（1週間に2時間の授業）しかない「公共」では授業時間内に問題演習をする時間はほとんどありません。記憶が定着するにはインプット3割、アウトプット7割の割合で学習すると効果的です。授業では知識をインプットできるわけですから、アウトプット（つまり復習）をしっかりとやりましょう。

②ニュースを見よう「今、何が起きているのか？ その原因は何なのか？」

新聞に毎日、目を通すことをおすすめします。時間がなければテレビのニュースやアプリのニュースでもかまいません。大切なのはニュースを継続して追っていくことです。途中からではわかりにくいかもしれませんが、次第に理解できるようになり、自分の考えも深まっていきます。授業の予習・復習にもなりますし、入試には教科書に載っていない新しい用語も出題されます。また、面接・小論文対策にも必要です。

③授業の教材はしっかり管理しておこう

授業で配布された教材（プリントなど）は全てきちんと保管しましょう。模擬試験で間違えてしまった箇所を復習して、それを教材と一緒にノートやファイルに保管することで、自分の弱点に対応する世界で唯一のオリジナル参考書になってくれます。

④参考書・問題集について

入学してすぐに参考書や問題集を準備する必要はないと考えています。特に皆さんはタブレットでも自学自習できる（スタディサプリなど）環境が整っているので、自分の学習スタイルや理解のレベルに応じて必要であれば用意すれば良いでしょう。もちろん、授業担当者も相談に乗ります。

注意しなければならないのは、公民科の参考書・問題集は、残念ながら種類は多くないことと、最新のものを使うことです。社会はこの瞬間も変化しています。古い参考書や問題集の中には、すでに内容が時代遅れ（＝間違い）になってしまっているものもあるのです。購入するという人は、用語や制度の確認用に使える薄い問題集が良いでしょう。いくつかの教科書会社からだされている『用語集』も役立ちます。

⑤とにかく集中！！

優れた参考書や塾での授業を受けたとしても、高校3年間でいちばん学習時間が確保されるのは学校の授業時間にほかなりません。そうであれば、毎回の授業を「この時間で完璧に理解して、覚えてやる！」くらいの気持ちを持って臨んでください。その時間にマスターできれば部活や行事といった「高校生活でやりたいこと」も十分できるはずです。

「好きこそものの上手なれ」。興味が持てればどんどん身につけていきますよ！

科目名等		単位数	教科書名	副教材等	
公共		2	公共 [東京書籍]	浜島書店 最新図説 公共	
【到達目標】		① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。 ② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 ③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。			
月	テスト	進度 (単元)	教科書目次より		主な学習事項
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1部 公共のとびら 第1章 公共的な空間をつくる私たち 1. 現代社会に生きる青年 2. 社会的な関係のなかで生きる人間 第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方	<input type="checkbox"/> 発達 <input type="checkbox"/> 青年期 <input type="checkbox"/> 自我のめざめ <input type="checkbox"/> ルソー <input type="checkbox"/> 第二の誕生 <input type="checkbox"/> 発達課題 <input type="checkbox"/> エリクソン <input type="checkbox"/> アイデンティティの確立 <input type="checkbox"/> 自己形成 <input type="checkbox"/> 自己の多元化 <input type="checkbox"/> 移行 <input type="checkbox"/> リキッド・モダニティ <input type="checkbox"/> 個人化 <input type="checkbox"/> キャリア		
6月 ～ 7月	1学期 期末	第3章 公共的な空間における基本的原理 1. 公共的な空間における協働 2. 民主主義とは 3. 立憲主義とは 4. 人権保障の意義と展開	<input type="checkbox"/> インセンティブ <input type="checkbox"/> 協働の利益 <input type="checkbox"/> 囚人のジレンマ <input type="checkbox"/> 市場 <input type="checkbox"/> 利害調整 <input type="checkbox"/> 市場の効率性 <input type="checkbox"/> 社会全体の公平性 <input type="checkbox"/> トレードオフ <input type="checkbox"/> 利害対立 <input type="checkbox"/> 国家 <input type="checkbox"/> 強制力 <input type="checkbox"/> 政治 <input type="checkbox"/> 法 <input type="checkbox"/> 社会契約説 <input type="checkbox"/> 自然権 <input type="checkbox"/> 立憲主義 <input type="checkbox"/> 民主主義		
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち テーマ1. 民主政治と政治参加	<input type="checkbox"/> 政治 <input type="checkbox"/> ルール <input type="checkbox"/> 政策 <input type="checkbox"/> 意思決定 <input type="checkbox"/> 地方公共団体 <input type="checkbox"/> 国際社会 <input type="checkbox"/> 政治権力 <input type="checkbox"/> 民主主義 <input type="checkbox"/> 投票 <input type="checkbox"/> 選挙 <input type="checkbox"/> 国民投票 <input type="checkbox"/> 国民審査 <input type="checkbox"/> 住民投票 <input type="checkbox"/> 請願		
11月 ～ 12月	2学期 期末	第2章 法の働きと私たち テーマ1. 法や規範の意義と役割 テーマ2. 市民生活と私法 テーマ3. 国民の司法参加 第3章 経済社会で生きる私たち テーマ1. 現代の経験と市場 テーマ2. 市場経済における金融の働き テーマ3. 財政の役割と持続可能な社会保障制度	<input type="checkbox"/> 社会規範 <input type="checkbox"/> 道徳 <input type="checkbox"/> 制裁 <input type="checkbox"/> 法の強制力 <input type="checkbox"/> 社会統制機能 <input type="checkbox"/> 活動促進機能 <input type="checkbox"/> 紛争解決機能 <input type="checkbox"/> 資源配分機能 <input type="checkbox"/> 自然法 <input type="checkbox"/> 実定法 <input type="checkbox"/> 慣習法 <input type="checkbox"/> 制定法 <input type="checkbox"/> 公法・私法 <input type="checkbox"/> 社会法 <input type="checkbox"/> 一般法 <input type="checkbox"/> 特別法 <input type="checkbox"/> 国内法 <input type="checkbox"/> 国際法 <input type="checkbox"/> 議員立法 <input type="checkbox"/> 裁判所 <input type="checkbox"/> 民事裁判 <input type="checkbox"/> 原告 <input type="checkbox"/> 被告 <input type="checkbox"/> 代理人 <input type="checkbox"/> 和解 <input type="checkbox"/> 調停		
1月		第4章 私たちの職業生活 テーマ1. 働くことの意義と職業選択 テーマ2. 労働者の権利と雇用・労働問題	<input type="checkbox"/> 労働力 <input type="checkbox"/> 労働契約 <input type="checkbox"/> 労働条件 <input type="checkbox"/> 契約自由の原則 <input type="checkbox"/> 労働問題 <input type="checkbox"/> 労働組合 <input type="checkbox"/> 労働三権 <input type="checkbox"/> 労働三法		
2月	学年末 考查	第5章 国際社会のなかで生きる私たち 第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	<input type="checkbox"/> 主権国家 <input type="checkbox"/> 領域 <input type="checkbox"/> 国民 <input type="checkbox"/> 主権 <input type="checkbox"/> 国家の三要素 <input type="checkbox"/> ウェストファリア条約 <input type="checkbox"/> 主権平等 <input type="checkbox"/> 外交		

※ 主な学習事項は学習内容のすべてではない。※ 1学期中間テストは実施しないことがある。

観点別評価ルーブリック

教科 公民
科目 公共

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	講義型授業 対話型授業 調べ学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	考察する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率
学習主体的に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。	講義型授業 対話型授業 調べ学習 考察する学習 議論する学習	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程度の得点率

3 数学科

はじめに 数学を学ぶ意義・姿勢

数学は好き嫌いが激しく分かれる教科です。皆さんの中にも数学なんて大嫌いという人もいれば、数学が一番楽しいという人もいるでしょう。高校では好きでも嫌いでも数学を学ばなくてはなりません。もちろん、やらなくては卒業できないからです。かといって、卒業するためだけに数学を勉強するのは悲しいものがあります。目的意識と志をもって学習するために、数学を学ぶ意義・意味を考えましょう。

まず挙げられるのが「数学で学んだ内容（数学的知識）が社会に出て（そのまま）役に立つ」ということです。理系の人で将来開発や研究に携わる人は言わずもがなでしょうが、文系の人でも経済学や商学等では様々な計算を行いますし、確率や統計を用いる場面はあります。

次に挙げられるのが「数学の学習で身に着けた能力が社会に出て活かせる」ということでしょう。数学の学習で身に着けられる最大の能力が「**課題解決能力**」です。決して「計算力」や「ひらめき」ではありません。目の前にある課題に対して「課題を分析し、解決への道筋を探し、解決のためのアイデアを見つけ、それを実際に実行・表現する」ことが出来るようになることが、課題解決能力をつけるということです。

皆さんには前者の「数学的知識」はもちろん、後者の「課題解決能力」を身に着けることを大宮北高校で数学を学ぶ意義・意味だと考えてほしいです。

さて、そのために大事なことは何でしょう。最も大切なことは**能動的に学ぶ姿勢**です。池の鯉のように口をパクパクさせてエサ（知識）を放り込んでもらえるのを待っているような学び方はしないでください。肉食動物のように自ら獲物（知識）を求めて狩りをするような学習姿勢を持ってほしいと思います。そのためのポイントとなる以下の点を順次説明しましょう。

- (1) 予習 (2) 授業 (3) 復習 (4) 小テスト・定期考査 (5) ノート

(1) 予習について

数学が得意になる秘訣は予習することです。予習をしないで授業に臨むのは新鮮であるかもしれませんが危険です。

「予習してもわからないのですが…」

わからなくていいのです。予習して教科書が理解できるなら、それはすごい能力です。わからないところを見つけることが大切。授業ではどうやって説明するのかなどという楽しみがあります。

「予習の仕方がわからないのですが…」

その時間にやりそうなところを解くだけでいいのです。わからないときはその近辺の例題や説明を参考にして考えるのです。それでもわからないときはマークしておいて次に進んでいいのです。

「予習する意義があるのですか？」

まず最も大切なこととして、**人に教わったことは忘れます。自ら理解したものは体と頭に身に着きます。**自分で理解できればそれがベストなのです。

さらに、**課題解決能力のなかでも最も重要なのは「初めて直面した問題に対応する能力」**です。予習を通して、初めて見た内容を自力で読み理解する…ということを日々続けることが、この能力の育成に大切です。近未来的にいえば、見たことのない入試問題に対応する力がつきます。将来のことを考えれば、研究者や開発者に問われるのは、誰も成し遂げたことのないこと、誰も創ったことのないものを発想・創造する力です。毎日の少しずつの予習が君たちをどれだけ成長させるか考えてください。

(2) 授業について

1. 先生の説明は注意深く聞き、疑問点は必ず質問をする。

「質問なんかしたら自分が分かっていないことが周りにばれちゃうんじゃないか・・・？」

大丈夫です。自分が分かってなければクラスの半分以上は分かっていません。先生の説明は完璧ではありません。あなたが聞きたい質問の答えはみんなが聞きたいことです。遠慮せずに質問してください。生徒の質問が多いのはいい授業の証拠です。

2. 先生の説明の要点は必ずメモをとる。

板書以外の説明もしっかり注意してノートに取るように心掛けましょう。問題を解く着眼点や発想などは、板書の中でなく、説明の中にあるかもしれません。

3. 問題は必ず自分で解く。

授業中に解く問題は、その授業が理解できたかどうかを試すチャンスです。数学では「理解する」だけでなく「解ける」「表現できる」ことが大事です。理解したことを使って問題を解き、答案として表現できるか確認しましょう。

4. 基本の解き方をマスターし、様々な解き方を探求する。

解いた問題の答え合わせをして、基本的な解き方を押さえましょう。さらに、別の解法がないか考えることが大切です。教科書に載っている解法がすべてではありません。一つのやり方で満足するのではなく、別の解法を考える習慣をつけることで、問題解決能力は何倍にもなります。

(3) 復習について

中学校では、授業時間中さえしっかり集中していれば、授業についていくのにそれほど苦労しなかったかもしれません。しかし、覚えるべきことの質や量がレベルアップした高校の学習内容を完璧に理解するためには、授業だけでは不十分です。その日の授業内容を理解できたかしっかり確認しておきましょう。また高校の授業の進むスピードは、中学校とは段違いです。そのため、ほんの少しの「わからないこと」が、あっと言う間に手のつけようがないほど溜まってしまいます。疑問点は早めに解決しておきましょう。

1. 宿題は必ず自分の力で取り組む。
2. 授業で扱わなかった問題にも挑戦する。問題集は考査前だけでなく普段から取り組んでおく。
3. 解けない問題にも教科書・授業ノート・参考書で調べ、粘り強く取り組む。
4. それでもわからないときは、周りの友達に聞いてみよう。友達に聞くことで、質問した人も質問された人も理解が深まります。
5. どうしてもわからないときは、どこが、何がわからないのかを明らかにして、先生に質問しましょう。

(4) 小テスト・定期考査

- ・ 大宮北高校では、教科書のまとまった単元、章が終わるときに確認のテストを行います。その単元、章の基本事項、標準的な問題が出題されるテストです。点数を気にするのではなく、自分の理解度を確認し、十分に理解している項目はさらに発展的な内容に、理解が不十分な項目は後回しにせず即座に基本から取り組みましょう。

- ・ 高校の定期考査は教科・科目数も多く、とても一夜漬けでは通用しません。数学も含め、どの教科も継続した日々の学習、家庭での予習、復習が欠かせません。定期考査前には、基本的には授業の理解を中心にして、教科書とノート、問題集を使って徹底復習しましょう。

高校で初めての定期考査は、何をすればいいのかわからない人も多いでしょう。
数学の小テスト・定期考査の出題内容は、簡単に言うと次のようになります。

- 教科書の練習、チャートの基本例題コンパス1・2にあるような「基本問題」
- 教科書の応用例題や章末問題A、チャートの基本例題コンパス3にあるような「標準問題」
- 教科書の章末問題B、チャートの重要例題コンパス4・EXERCISESにあるような「応用問題」

基本的にはこれらを、教科書と授業ノート、参考書を利用して、最初からもう一度自分の力で解くことが最低限必要になります。

解き方を暗記したり、模範解答を綺麗にノートに写したりして勉強した気になって終わるのではなく、**とにかく「考える」「答案を完成させる」ことが大切**です。代表的・典型的な例題は、解法パターンの習得が必要ですが、それでもすぐに模範解答をみるのではなく、時には時間をかけて考え、悩むことが必要です。**自分で考えてこそ**、模範解答を見たとき、納得し・解法に感心し、あるいは気づかなかったポイントが強く印象づけられるというものです。

実際に手を動かし・考え、その後で解法を確認する。学問に王道なし。千里の道も一歩から。継続は力なり。地道な努力を継続することこそが次の勝利へとつながるのです。

<事前対策のチェック&アドバイス>

2週間前Check <計画を立て、範囲内のポイントを徹底理解！>

- **テスト範囲を確認して、計画を立てる。**

試験範囲をもれなく対策するためには、計画的に勉強することが何よりも大切です。

- **知識にもれがないよう教科書・授業ノートを見直す。**

押さえるべきポイントや知識はすべて頭に入れましょう。

- **定理・公式の使い方をチェックする。**

定理・公式はただ覚えるだけでは点が取れません。理解し、基本問題を解いて使い方を確認しておきましょう。

1週間前Check <問題を解ける状態にしておこう！>

- **教科書、問題集の問題を解く。**

知識は、実際に問題が解けてはじめてテストで通用します。問題演習には徹底的に取り組みましょう。

- **課題プリントも確認し、問題を解いておく。**

- **以前、間違えたことのある問題は必ず解き直す。**

高校の定期テストでは問題を解く過程も採点の対象となるので、解法までしっかり確認しておきましょう。

- **教科書の章末問題、問題集の応用問題にも取り組む。**

前日Check <直前は最終チェック！>

- **解き方に不安のある問題はないか、再チェックする。**

- **定理・公式などをもう一度確かめておく。**

(5) ノートについて

数学Ⅰ・数学Aそれぞれ少なくとも「予習・授業ノート」「問題演習ノート」「誤答訂正ノート」の3冊のノートを用意して下さい。

「予習・授業ノート」：日々の予習や授業で使います。

- ・予習の段階では、新しい言葉(定義)の確認、例題などを自力で取り組み、不明な点を明らかにしておきます。
- ・授業では、
 - ①章やタイトルを記入し、復習の時に見やすいノートを心がける。
 - ②式変形などは途中式を省略せず、後で見直したときに分かるようにしておく。
 - ③口頭での説明も含め、大切なポイントは、枠で囲んだり蛍光ペンで色づけしたり目立つようにする。
 - ④図やグラフは、大きめに丁寧に描く。問題で問われている状況がイメージしやすくなります。

「問題演習ノート」：「基本と演習テーマ」「チャート式」の問題等を解きます。

- ・例として、㉔：自力で解けた、㉕：ヒントを見て解けた、㉖：解答を見て理解した、㉗：解答を見ても不明 などのチェックをつけ、㉕～㉗は必ず解き直す。試験までに3回は繰り返すとよい。
- ・夏休みなどの演習課題を解く。

「誤答訂正ノート」：小テストや定期考査、課題テスト、実力テストの復習に用います。

- ・テストが終わって安心してはいけません。テスト勉強は、実は答案用紙が返却された後こそが本番と言ってもいいくらいなのです。その範囲内の最重要事項ばかりを凝縮して作られるのが試験問題です。

間違えた問題、減点された問題を徹底的に解き直すことは学力を向上させるために極めて効果的です。

このことは、これから取り組むすべての試験で一番大切なことです。

- ①問題用紙、解答用紙を貼る。
- ②間違ったり、減点されたりした問題は、模範解答を参考に**解き直し**、解答の流れを整理する。
- ③誤答の原因や、**解法のポイント**をわかりやすくまとめる。
- ④**類題**を、問題集や教科書から探し解いてみる。
- ⑤最後に、テストの結果や普段の学習の仕方について**反省点や改善点**などをまとめる。

- ・自分がどこでつまづいたのか、どうして間違えたのかが一目でわかり、復習するのにとても便利です。このノートは後で何度も見返しましょう。返却された答案用紙は、これから成績アップするために何をすればいいのかを教えてくれる道しるべであり、向上への宝の山です！

(6) 最後に

<数学の2つの勉強法>

数学は積み上げていく学問なのでコツコツやっていくのが普通でしょう。定期テストくらいはこれで対応できます。しかし、理系の入試、さらに理工系で数学を応用する場合、これでは不十分です。必要なのは2つ、

「熱中する時間」「コツコツと学ぶ時間」

何か面白いことがあったらそれに熱中して考えてみましょう。その分野が得意になるはずですが。苦手な分野があったら8時間そこだけをやってみましょう。何かが見えてきます。中学の教科書を丸一日かけて見直すのもいいかもしれません。**コツコツ、時に熱中!**

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
数学Ⅰ、数学A		5	数学Ⅰ、数学A、数学Ⅱ [数研出版]	参考書「チャート式 解法と演習」 問題集「練習ドリル数学Ⅰ、A」
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、スピーディーに処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。		
【学習上の留意点】		① 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ② 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。		
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学Ⅰ」第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式	<input type="checkbox"/> 整式の加法と減法 <input type="checkbox"/> 整式の乗法 <input type="checkbox"/> 因数分解 <input type="checkbox"/> 実数 <input type="checkbox"/> 根号を含む式の計算 <input type="checkbox"/> 不等式の性質 <input type="checkbox"/> 1次不等式 <input type="checkbox"/> 絶対値 を含む方程式・不等式	
		「数学Ⅰ」第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数の値と変化	<input type="checkbox"/> 関数とグラフ <input type="checkbox"/> 2次関数のグラフ <input type="checkbox"/> 2次関数の最大・最小 <input type="checkbox"/> 2次関数の決定	
6月 ～ 7月	1学期 期末	第3節 2次方程式と2次不等式	<input type="checkbox"/> 2次方程式 <input type="checkbox"/> 2次関数のグラフとx軸の位置関係 <input type="checkbox"/> 2次不等式	
		「数学Ⅰ」第2章 集合と命題	<input type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> 命題と条件 <input type="checkbox"/> 命題と証明	
		「数学A」第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数	<input type="checkbox"/> 集合の要素の個数 <input type="checkbox"/> 場合の数 <input type="checkbox"/> 順列 <input type="checkbox"/> 組合せ	
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2節 確率	<input type="checkbox"/> 事象と確率 <input type="checkbox"/> 確率の基本性質 <input type="checkbox"/> 独立な試行と確率 <input type="checkbox"/> 条件付き確率 <input type="checkbox"/> 期待値	
		「数学Ⅰ」第5章 データの分析	<input type="checkbox"/> データの整理 <input type="checkbox"/> データの代表値 <input type="checkbox"/> データの散らばりと四分位数 <input type="checkbox"/> 分散と標準偏差 <input type="checkbox"/> 2つの 変数の間の関係 <input type="checkbox"/> 仮説検定の考え方	
		「数学A」第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2節 空間図形	<input type="checkbox"/> 三角形の辺の比 <input type="checkbox"/> 三角形の外心・内心・重心 <input type="checkbox"/> チェバの定理・メネラウスの定理 <input type="checkbox"/> 円に内接する四角形 <input type="checkbox"/> 円と 直線 <input type="checkbox"/> 2つの円 <input type="checkbox"/> 作図 <input type="checkbox"/> 直線と平面 <input type="checkbox"/> 空間図形と多面体	
11月 ～ 12月	2学期 期末	「数学Ⅰ」第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用	<input type="checkbox"/> 三角比 <input type="checkbox"/> 三角比の相互関係 <input type="checkbox"/> 三角比の拡張 <input type="checkbox"/> 正弦定理 <input type="checkbox"/> 余弦定理 <input type="checkbox"/> 正弦定理と余弦定理の応用 <input type="checkbox"/> 三角形の面積 <input type="checkbox"/> 空間図形への応用	
		「数学A」第3章 数学と人間の活動	<input type="checkbox"/> 約数と倍数 <input type="checkbox"/> 素数と素因数分解 <input type="checkbox"/> 最大公約数・最小公倍数 <input type="checkbox"/> 整数の割り算 <input type="checkbox"/> ユークリッドの互除法 <input type="checkbox"/> 1次不定方程式 <input type="checkbox"/> 記数法 <input type="checkbox"/> 座標の考え方 <input type="checkbox"/> ゲーム・パズルの中の数学	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	「数学Ⅱ」第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式と不等式の証明	<input type="checkbox"/> 3次式の展開と因数分解 <input type="checkbox"/> 二項定理 <input type="checkbox"/> 多項式の割り算 <input type="checkbox"/> 分数式とその計算 <input type="checkbox"/> 恒等式 <input type="checkbox"/> 等式の証明 <input type="checkbox"/> 不等式の証明	
		「数学Ⅱ」第2章 複素数と方程式	<input type="checkbox"/> 複素数とその計算 <input type="checkbox"/> 2次方程式の解 <input type="checkbox"/> 解と係数の関係 <input type="checkbox"/> 剰余の定理と因数定理 <input type="checkbox"/> 高次方程式	

※ 課題テスト(9月・1月)：長期休業中に出された課題をもとに出題する。

※ 実力テスト(7月・11月・1月)：それまでに学習した範囲で標準レベルから応用レベルの模試を実施する

※ 小テスト：各章ごとに教科書レベルの問題で確認テストを実施する。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
理数数学 I		6	数学 I、数学 A、数学 II [数研出版]	参考書「チャート式 解法と演習」 問題集「練習ドリル数学 I, A」
【到達目標】		① 数学的な基本的概念や原理・法則の理解を深め活用する。 ② 事象を数学的に考察し、スピーディーに処理する能力を高める。 ③ 具体的な問題の解決能力を高め、抽象的に考察する能力を習得する。		
【学習上の留意点】		① 新しい考え方や概念について、その内容と有効性を理解したか。 ② 問題演習や課題などに積極的に取り組み、特に日々の予習・復習に対して主体的・継続的に学習する姿勢が身に付いたか。 ③ 小テスト・課題テスト等を利用し、自己の基礎的能力の定着を図ることができたか。		
月	テスト	進度 (単元)	自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	「数学 I」第 1 章 数と式 第 1 節 式の計算 第 2 節 実数 第 3 節 1 次不等式	<input type="checkbox"/> 整式の加法と減法 <input type="checkbox"/> 整式の乗法 <input type="checkbox"/> 因数分解 <input type="checkbox"/> 実数 <input type="checkbox"/> 根号を含む式の計算 <input type="checkbox"/> 不等式の性質 <input type="checkbox"/> 1 次不等式 <input type="checkbox"/> 絶対値 を含む方程式・不等式	
		「数学 I」第 3 章 2 次関数 第 1 節 2 次関数とグラフ 第 2 節 2 次関数の値と変化 第 3 節 2 次方程式と 2 次不等式	<input type="checkbox"/> 関数とグラフ <input type="checkbox"/> 2 次関数のグラフ <input type="checkbox"/> 2 次関数の最大・最小 <input type="checkbox"/> 2 次関数の決定 <input type="checkbox"/> 2 次方程式 <input type="checkbox"/> 2 次関数のグラフと x 軸の位置関係 <input type="checkbox"/> 2 次不等式	
6月 ～ 7月	1学期 期末	「数学 I」第 2 章 集合と命題	<input type="checkbox"/> 集合 <input type="checkbox"/> 命題と条件 <input type="checkbox"/> 命題と証明	
		「数学 A」第 1 章 場合の数と確率 第 1 節 場合の数 第 2 節 確率	<input type="checkbox"/> 集合の要素の個数 <input type="checkbox"/> 場合の数 <input type="checkbox"/> 順列 <input type="checkbox"/> 組合せ <input type="checkbox"/> 事象と確率 <input type="checkbox"/> 確率の基本性質 <input type="checkbox"/> 独立な試行と確率 <input type="checkbox"/> 条件付き確率 <input type="checkbox"/> 期待値	
		「数学 I」第 5 章 データの分析	<input type="checkbox"/> データの整理 <input type="checkbox"/> データの代表値 <input type="checkbox"/> データの散らばりと四分位数 <input type="checkbox"/> 分散と標準偏差 <input type="checkbox"/> 2 つの変量の間の関係 <input type="checkbox"/> 仮説検定の考え方	
9月 ～ 10月	2学期 中間	「数学 A」第 2 章 図形の性質 第 1 節 平面図形 第 2 節 空間図形	<input type="checkbox"/> 三角形の辺の比 <input type="checkbox"/> 三角形の外心・内心・重心 <input type="checkbox"/> チェバの定理・メネラウスの定理 <input type="checkbox"/> 円に内接する四角形 <input type="checkbox"/> 円と直線 <input type="checkbox"/> 2 つの円 <input type="checkbox"/> 作図 <input type="checkbox"/> 直線と平面 <input type="checkbox"/> 空間図形と多面体	
		「数学 I」第 4 章 図形と計量 第 1 節 三角比 第 2 節 三角形への応用	<input type="checkbox"/> 三角比 <input type="checkbox"/> 三角比の相互関係 <input type="checkbox"/> 三角比の拡張 <input type="checkbox"/> 正弦定理 <input type="checkbox"/> 余弦定理 <input type="checkbox"/> 正弦定理と余弦定理の応用 <input type="checkbox"/> 三角形の面積 <input type="checkbox"/> 空間図形への応用	
11月 ～ 12月	2学期 期末	「数学 A」第 3 章 数学と人間の活動	<input type="checkbox"/> 約数と倍数 <input type="checkbox"/> 素数と素因数分解 <input type="checkbox"/> 最大公約数・最小公倍数 <input type="checkbox"/> 整数の割り算 <input type="checkbox"/> ユークリッドの互除法 <input type="checkbox"/> 1 次不定方程式 <input type="checkbox"/> 記数法 <input type="checkbox"/> 座標の考え方 <input type="checkbox"/> ゲーム・パズルの中の数学	
		「数学 II」第 1 章 式と証明 第 1 節 式と計算 第 2 節 等式と不等式の証明	<input type="checkbox"/> 3 次式の展開と因数分解 <input type="checkbox"/> 二項定理 <input type="checkbox"/> 多項式の割り算 <input type="checkbox"/> 分数式とその計算 <input type="checkbox"/> 恒等式 <input type="checkbox"/> 等式の証明 <input type="checkbox"/> 不等式の証明	
		「数学 II」第 2 章 複素数と方程式 第 1 節 複素数と 2 次方程式の解 第 2 節 高次方程式	<input type="checkbox"/> 複素数とその計算 <input type="checkbox"/> 2 次方程式の解 <input type="checkbox"/> 解と係数の関係 <input type="checkbox"/> 剰余の定理と因数定理 <input type="checkbox"/> 高次方程式	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	「数学 II」第 3 章 図形と方程式 第 1 節 点と直線 第 2 節 円 第 3 節 軌跡と領域	<input type="checkbox"/> 直線上の点 <input type="checkbox"/> 平面上の点 <input type="checkbox"/> 直線の方程式 <input type="checkbox"/> 2 直線の関係 <input type="checkbox"/> 円の方程式 <input type="checkbox"/> 円と直線 <input type="checkbox"/> 2 つの円 <input type="checkbox"/> 軌跡と方程式 <input type="checkbox"/> 不等式の表す領域	

※ 課題テスト (9月・1月) : 長期休業中に出された課題をもとに出題する。

※ 実力テスト (7月・11月・1月) : それまでに学習した範囲で標準レベルから応用レベルの模試を実施する。

※ 小テスト : 各章ごとに教科書レベルの問題で確認テストを実施する。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

数学
数学 I

観点	目標	評価項目	A	B	C
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。 	章末テスト 標準テスト 課題検査 定期検査 等	該当問題の得点率が十分満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。
思考・判断・表現	<p>数と式，図形と計量，2次関数及びデータの分析において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。</p>	章末テスト 標準テスト 課題検査 定期検査 等 行動観察 提出物 等	<p>該当問題の得点率が十分満足できる。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力に優れている。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね満足できる。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力が標準である。</p>	<p>該当問題の得点率が努力を要する状態である。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力に乏しい。</p>
学習主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 	行動観察 提出物 等	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

数学
数学A

観点	目標	評価項目	A	B	C
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・場合の数と確率，図形の性質及び整数の性質における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 	章末テスト 標準テスト 課題検査 定期検査 等	該当問題の得点率が十分満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。
思考・判断・表現	場合の数と確率，図形の性質及び整数の性質において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。	章末テスト 標準テスト 課題検査 定期検査 等 行動観察 提出物 等	該当問題の得点率が十分満足できる。 自己の思考や判断についての表現力に優れている。	該当問題の得点率がおおむね満足できる。 自己の思考や判断についての表現力が標準である。	該当問題の得点率が努力を要する状態である。 自己の思考や判断についての表現力に乏しい。
学習主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり，粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 	行動観察 提出物 等	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業への取り組み状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

化学基礎

授業の取り組み方

- 化学の授業は既習内容を用いて次の内容を学習することがほとんどです。得られた知識を活用すること（知識を使って表現したり、思考すること）に重きをおいた授業が展開されます。不明なところを放置していると、連続的に分からなくなってしまう。理解できなかったところはなるべく早く克服できるように、同級生や教員に質問することも大切です。
- 副教材として「セミナー」を購入してもらいます。しかし、核となるのは授業で扱った内容や教科書です。基礎力や理解の基盤は教科書やノート、授業プリントで固めてください。
- 「セミナー」は標準演習が多く、普段の学習や定期考査対策の学習に向いています。個人の目的・状況に合わせて、最適な使い方を見つけてください。一般的には、授業のたびに不明なところを教科書等で確認し、副教材で学習内容の理解度を確認するという使い方が良いと思います。理系学部に進学しようとする多くの生徒は、受験勉強までセミナーを使うことになります。3年間大切に使いましょう。
- タブレットを有効に活用しましょう。授業資料のデータを使用することや実験・観察の記録を残すこともできます。また、「スタディサプリ」を使って普段の予習・復習をすることもできます。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等	
化学基礎		2	改訂版 化学基礎 (数研出版)	2024 セミナー 化学基礎+化学 (第一学習社)	
月	テスト	進度 (単元)		自己チェック項目	
4月 ～ 5月	1学期 中間	1-1. 物質の構成 ① 純物質と混合物 ② 物質とその成分 ③ 物質の三態と熱運動	<input type="checkbox"/> 純物質と混合物 <input type="checkbox"/> 物質の分離・精製 <input type="checkbox"/> 原子と元素 <input type="checkbox"/> 単体と化合物 <input type="checkbox"/> 同素体	<input type="checkbox"/> 成分元素の検出 <input type="checkbox"/> 拡散と粒子の熱運動 <input type="checkbox"/> 物質の三態と熱運動 <input type="checkbox"/> 状態変化	
		1-2. 物質の構成粒子 ① 原子とその構造 ② イオン ③ 周期表	<input type="checkbox"/> 原子の構造 <input type="checkbox"/> 同位体 <input type="checkbox"/> 電子配置 <input type="checkbox"/> 価電子 <input type="checkbox"/> イオン	<input type="checkbox"/> イオン化エネルギーと電子親和力 <input type="checkbox"/> 周期表 <input type="checkbox"/> 元素の分類 <input type="checkbox"/> 同族元素	
6月 ～ 7月	1学期 期末	1-3. 粒子の結合 ① イオン結合とイオン結晶 ② 共有結合と分子 ③ 配位結合 ④ 分子間にはたらく力 ⑤ 高分子化合物 ⑥ 共有結合の結晶 ⑦ 金属結合と金属結晶	<input type="checkbox"/> イオン結合とイオン結晶 <input type="checkbox"/> 分子 <input type="checkbox"/> 電子式と構造式 <input type="checkbox"/> 分子の形 <input type="checkbox"/> 配位結合 <input type="checkbox"/> 錯イオン <input type="checkbox"/> 高分子化合物	<input type="checkbox"/> 電気陰性度 <input type="checkbox"/> 結合の極性 <input type="checkbox"/> 分子間力 <input type="checkbox"/> 分子結晶 <input type="checkbox"/> 共有結合の結晶 <input type="checkbox"/> 金属結合 <input type="checkbox"/> 金属の利用 <input type="checkbox"/> 合金の利用	
9月 ～ 10月	2学期 中間	2-1. 物質と化学反応式 ① 原子量・分子量・式量 ② 物質質量 ③ 溶液の濃度 ④ 化学反応式と物質質量	<input type="checkbox"/> 原子の相対質量 <input type="checkbox"/> 原子量 <input type="checkbox"/> 分子量・式量 <input type="checkbox"/> 物質と粒子の数 <input type="checkbox"/> 物質と質量 <input type="checkbox"/> 物質と気体の体積	<input type="checkbox"/> 溶液の濃度 <input type="checkbox"/> 化学反応式 <input type="checkbox"/> イオンを含む反応式 <input type="checkbox"/> 化学反応式が表す量的関係 <input type="checkbox"/> 化学の基礎法則	
11月 ～ 12月	2学期 期末	2-2. 酸と塩基の反応 ① 酸・塩基 ② 水素イオン濃度とpH ③ 中和反応と塩 ④ 中和滴定	<input type="checkbox"/> 酸と塩基の定義 <input type="checkbox"/> 酸と塩基の価数, 強弱 <input type="checkbox"/> 水素イオン濃度とpH <input type="checkbox"/> pH指示薬とpHの測定 <input type="checkbox"/> 中和反応	<input type="checkbox"/> 塩 <input type="checkbox"/> 塩と酸・塩基の反応 <input type="checkbox"/> 中和反応の量的関係 <input type="checkbox"/> 中和滴定 <input type="checkbox"/> 滴定曲線	
1月 ～ 3月	3学期 学年末	2-3. 酸化還元反応 ① 酸化と還元 ② 酸化剤と還元剤 ③ 金属の酸化還元反応 ④ 酸化還元反応の利用 ⑤ 電池	<input type="checkbox"/> 酸化・還元の定義 <input type="checkbox"/> 酸化・還元と酸化数 <input type="checkbox"/> 酸化剤と還元剤 <input type="checkbox"/> 酸化剤と還元剤の反応 <input type="checkbox"/> 酸化還元反応の量的関係 <input type="checkbox"/> 金属のイオン化傾向	<input type="checkbox"/> イオン化傾向と金属の反応性 <input type="checkbox"/> 酸化還元反応とエネルギー <input type="checkbox"/> 電池のしくみ <input type="checkbox"/> 実用電池 <input type="checkbox"/> 金属の製錬	

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
生物基礎		2	生物基礎 数研出版	リードLightノート 生物基礎 リードα 生物基礎
【到達目標】		① 生物学の基礎知識を得、自然科学に対する興味、関心を育てる。 ② データの読み方を身につける。 ③ 共通テストおよび、個別試験に対応できる学力を養う。		
月	テスト	進度(単元)		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	予備学習1 顕微鏡の基本操作 第1編 生物の特徴 第1章 生物の特徴		<input type="checkbox"/> 生物の多様性と共通性 <input type="checkbox"/> エネルギーと代謝
6月 ～ 7月	1学期 期末	予備学習2 ミクロメーターによる測定 第1章 生物の特徴 第2章 遺伝情報とDNA		<input type="checkbox"/> 呼吸と光合成 <input type="checkbox"/> 遺伝情報とDNA
9月 ～ 10月	2学期 中間	第2章 遺伝情報とDNA		<input type="checkbox"/> DNAの複製と分配 <input type="checkbox"/> 遺伝情報の発現
11月 ～ 12月	2学期 期末	第2章 遺伝情報とDNA 第2編 ヒトの体内環境の維持 第3章 ヒトの体内環境の維持		<input type="checkbox"/> 遺伝情報の発現 <input type="checkbox"/> 体内での情報伝達と調節 <input type="checkbox"/> 体内環境の維持のしくみ
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第3章 ヒトの体内環境の維持 第3編 生物の多様性と生態系 第4章 生物の多様性と生態系		<input type="checkbox"/> 免疫のはたらき <input type="checkbox"/> 植生と遷移 <input type="checkbox"/> 植生の分布とバイオーム

※ 課題テスト：なし

※ 実力テスト：なし

生物基礎（1年）

（1） 予習について

予習は基本的に必要ありません。しかし、授業を聞いても理解しにくいことが多い場合は、予習をした方が良いでしょう。

（2） 授業について

- ・1年生は生物基礎の教科書の第3編 第2節まで進みます。第3節以降は2年生（生物選択者）で学びます。
- ・分からない箇所があったら積極的に質問をして下さい。
- ・授業の中で実験を行う際には、実験の方法・内容を理解した上で取り組んで下さい。

（3） 考査およびその学習方法について

授業で習ったことの確認として問題集を解きましょう。2回目からはできなかった問題のみを解いていきましょう。分からない問題は、まず解説を読んで、それでも分からなければ、質問に来て下さい。

生物は用語が多く、暗記が重要に思われる傾向にありますが、用語だけを必死に暗記してもなかなかできるようにはなりません。用語や教科書の模式図、イラスト等を見たときにそれらについてどれだけ周辺の知識も含めて思い出して話せるかが重要になります。用語集などを使用する場合は、単語の意味などを隠して、用語の意味や周辺知識を思い出すように行う勉強をお奨めします。

理数科1年生 SS 理数化学

授業の取り組み方

- 化学の授業は既習内容を用いて次の内容を学習することがほとんどです。得られた知識を活用すること(知識を使って表現したり、思考すること)に重きをおいた授業が展開されます。不明なところを放置していると、連続的に分からなくなってしまうます。理解できなかったところはなるべく早く克服できるように、同級生や教員に質問することも大切です。
- 副教材として「セミナー」を購入してもらいます。しかし、核となるのは授業で扱った内容や教科書です。基礎力や理解の基盤は教科書やノート、授業プリントで固めてください。
- 「セミナー」は標準演習が多く、普段の学習や定期考査対策の学習に向いています。個人の目的・状況に合わせて、最適な使い方を見つけてください。一般的には、授業のたびに不明なところを教科書等で確認し、副教材で学習内容の理解度を確認するという使い方が良いと思います。また、セミナーは受験勉強まで使うことになります。3年間大切に使いましょう。何周もセミナーを解くことで、基本的な化学の問題の解法を身に付けることができます。
- タブレットを有効に活用しましょう。授業資料のデータを使用することや実験・観察の記録を残すこともできます。また、「スタディサプリ」を使って普段の予習・復習をすることもできます。
- 図録を活用しましょう。教科書には記載しきれない内容を知ることができます。実際の絵やグラフを見ることで理解の手助けになることでしょう。また、様々なデータも載っていますので是非有効活用してください。

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
SS理数化学		2	化学基礎（数研出版） 化学（数研出版）	2024 セミナー 化学基礎+化学（第一学習社） 新課程 フォトサイエンス 化学図録（数研出版）
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	1-1. 物質の構成 ① 純物質と混合物 ② 物質とその成分 ③ 物質の三態と熱運動	<input type="checkbox"/> 純物質と混合物 <input type="checkbox"/> 物質の分離・精製 <input type="checkbox"/> 原子と元素 <input type="checkbox"/> 単体と化合物 <input type="checkbox"/> 同素体	<input type="checkbox"/> 成分元素の検出 <input type="checkbox"/> 拡散と粒子の熱運動 <input type="checkbox"/> 物質の三態と熱運動 <input type="checkbox"/> 状態変化
		1-2. 物質の構成粒子 ① 原子とその構造 ② イオン ③ 周期表	<input type="checkbox"/> 原子の構造 <input type="checkbox"/> 同位体 <input type="checkbox"/> 電子配置 <input type="checkbox"/> 価電子 <input type="checkbox"/> イオン	<input type="checkbox"/> イオン化エネルギーと電子親和力 <input type="checkbox"/> 周期表 <input type="checkbox"/> 元素の分類 <input type="checkbox"/> 同族元素
6月 ～ 7月	1学期 期末	1-3. 粒子の結合 ① イオン結合とイオン結晶 ② 共有結合と分子 ③ 配位結合 ④ 分子間にはたらく力 ⑤ 高分子化合物 ⑥ 共有結合の結晶 ⑦ 金属結合と金属結晶	<input type="checkbox"/> イオン結合とイオン結晶 <input type="checkbox"/> 分子 <input type="checkbox"/> 電子式と構造式 <input type="checkbox"/> 分子の形 <input type="checkbox"/> 配位結合 <input type="checkbox"/> 錯イオン <input type="checkbox"/> 高分子化合物 <input type="checkbox"/> 単位格子	<input type="checkbox"/> 電気陰性度 <input type="checkbox"/> 結合の極性 <input type="checkbox"/> 分子間力 <input type="checkbox"/> 分子結晶 <input type="checkbox"/> 共有結合の結晶 <input type="checkbox"/> 金属結合 <input type="checkbox"/> 金属の利用 <input type="checkbox"/> 合金の利用
9月 ～ 10月	2学期 中間	2-1. 物質と化学反応式 ① 原子量・分子量・式量 ② 物質質量 ③ 溶液の濃度 ④ 溶解度 ⑤ 化学反応式と物質質量	<input type="checkbox"/> 原子の相対質量 <input type="checkbox"/> 原子量 <input type="checkbox"/> 分子量・式量 <input type="checkbox"/> 物質と粒子の数 <input type="checkbox"/> 物質と質量 <input type="checkbox"/> 物質と気体の体積	<input type="checkbox"/> 溶液の濃度 <input type="checkbox"/> 化学反応式 <input type="checkbox"/> イオンを含む反応式 <input type="checkbox"/> 化学反応式が表す量的関係 <input type="checkbox"/> 化学の基礎法則
11月 ～ 12月	2学期 期末	2-2. 酸と塩基の反応 ① 酸・塩基 ② 水素イオン濃度とpH ③ 中和反応と塩 ④ 中和滴定 ⑤ 加水分解	<input type="checkbox"/> 酸と塩基の定義 <input type="checkbox"/> 酸と塩基の価数、強弱 <input type="checkbox"/> 水素イオン濃度とpH <input type="checkbox"/> pH指示薬とpHの測定 <input type="checkbox"/> 中和反応	<input type="checkbox"/> 塩 <input type="checkbox"/> 塩と酸・塩基の反応 <input type="checkbox"/> 中和反応の量的関係 <input type="checkbox"/> 中和滴定 <input type="checkbox"/> 滴定曲線
1月 ～ 3月	3学期 学年末	2-3. 酸化還元反応 ① 酸化と還元 ② 酸化剤と還元剤 ③ 金属の酸化還元反応 ④ 酸化還元反応の利用 ⑤ 電池	<input type="checkbox"/> 酸化・還元の定義 <input type="checkbox"/> 酸化・還元と酸化数 <input type="checkbox"/> 酸化剤と還元剤 <input type="checkbox"/> 酸化剤と還元剤の反応 <input type="checkbox"/> 酸化還元反応の量的関係 <input type="checkbox"/> 金属のイオン化傾向	<input type="checkbox"/> イオン化傾向と金属の反応性 <input type="checkbox"/> 酸化還元反応とエネルギー <input type="checkbox"/> 電池のしくみ <input type="checkbox"/> 実用電池 <input type="checkbox"/> 金属の製錬

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
SS生物		2	生物基礎 生物 数研出版	リードα 生物基礎+生物 数研出版
【到達目標】		① 生物学の基礎知識を得、自然科学に対する興味、関心を育てる。 ② データの読み方を身につける。 ③ 共通テストおよび、個別試験に対応できる学力を養う。		
【学習上の留意点】		① 生物基礎と生物の重複分野は、両方の内容を学習する。 ② 定期考査は、共通テスト、個別試験に準ずるレベルとなる。		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	〈生物基礎〉 第1章 生物の特徴 第1節 生物の多様性と共通性 第2節 エネルギーと代謝 〈生物〉 第2章 細胞と分子 第1節 生体物質と細胞		<input type="checkbox"/> 生物の多様性 <input type="checkbox"/> 生物の共通性としての細胞 <input type="checkbox"/> 生物の多様性・共通性とその由来 <input type="checkbox"/> 生命活動とエネルギー <input type="checkbox"/> 代謝とエネルギー <input type="checkbox"/> ATP <input type="checkbox"/> 細胞を構成する物質 <input type="checkbox"/> 原核細胞と真核細胞の構造 <input type="checkbox"/> 真核細胞の構造と機能 <input type="checkbox"/> 生体膜の構造
6月 ～ 7月	1学期 期末	〈生物基礎〉 第1章 生物の特徴 第3節 呼吸と光合成 〈生物〉 第2章 細胞と分子 第2節 タンパク質の構造と性質 第3節 化学反応にかかわるタンパク質 第4節 膜輸送や情報伝達にかかわる タンパク質		<input type="checkbox"/> 呼吸 <input type="checkbox"/> 光合成 <input type="checkbox"/> エネルギーの流れ <input type="checkbox"/> 酵素 <input type="checkbox"/> タンパク質とは <input type="checkbox"/> タンパク質の構造 <input type="checkbox"/> 酵素の基本的なはたらき <input type="checkbox"/> 酵素反応の調節 <input type="checkbox"/> 酵素のはたらきと反応条件 <input type="checkbox"/> 膜輸送にかかわるタンパク質
9月 ～ 10月	2学期 中間	〈生物基礎〉 第2章 遺伝子とそのはたらき 第1節 遺伝情報とDNA 第2節 遺伝情報の複製と分配 〈生物〉 第4章 遺伝情報の発現と発生 第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現		<input type="checkbox"/> 遺伝情報を含む物質 <input type="checkbox"/> DNAの構造 <input type="checkbox"/> 遺伝情報の複製 <input type="checkbox"/> 遺伝情報の分配 <input type="checkbox"/> DNAの構造 <input type="checkbox"/> DNAの複製 <input type="checkbox"/> 遺伝情報とその発現 <input type="checkbox"/> 転写とスプライシング <input type="checkbox"/> 翻訳 <input type="checkbox"/> 真核細胞と原核細胞のタンパク質合成の違い
11月 ～ 12月	2学期 期末	〈生物基礎〉 第2章 遺伝子とそのはたらき 第3節 遺伝情報の発現 〈生物〉 第4章 遺伝情報の発現と発生 第2節 遺伝情報の発現		<input type="checkbox"/> 遺伝情報とタンパク質 <input type="checkbox"/> タンパク質の合成 <input type="checkbox"/> 分化した細胞の遺伝子発現 <input type="checkbox"/> 遺伝情報と遺伝子, ゲノム <input type="checkbox"/> 遺伝情報とその発現 <input type="checkbox"/> 転写とスプライシング <input type="checkbox"/> 翻訳 <input type="checkbox"/> 真核・原核細胞のタンパク質合成
1月 ～ 3月	3学期 学年末	〈生物基礎〉 第3章 ヒトの体内環境の維持 第1節 体内での情報伝達と調節 第2節 体内環境の維持のしくみ 第3節 免疫のはたらき		<input type="checkbox"/> 体内での情報伝達 <input type="checkbox"/> 神経系による情報伝達と調節 <input type="checkbox"/> 内分泌系による情報の伝達と調節 <input type="checkbox"/> 体内環境の維持 <input type="checkbox"/> 血糖濃度の調節のしくみ <input type="checkbox"/> 血液の循環を維持するしくみ <input type="checkbox"/> からだを守るしくみ-免疫 <input type="checkbox"/> 自然免疫 <input type="checkbox"/> 適応免疫

※ 課題テスト：なし

※ 実力テスト：なし

SS 理数生物（1年）

（1）予習・復習について

生物の予習、復習は、苦手な人以外は必要ありません。特に、必要な場合は、教科担当からアドバイスがあります。

（2）授業について

先生の話をしっかり聞いて、必要なことは自分でメモしましょう。また、授業中に分からない箇所があればすぐに聞いて下さい。生物基礎と生物で、重複している部分がありますが、SS 理数生物では、これらも1・2年生のうちから学んでいきます。また、教科書には発展や参考といった内容が、数多く掲載されています。授業で全て扱うことはできませんが、内容を理解しておく必要があります。

（3）実験について

生物実験を行います。実験後は、指定された様式で、プリントやレポートを提出してもらいます。実験内容を十分に理解し、その他の資料も参考にしてレポートを作成してください。提出期限厳守です。

（4）考査およびその学習方法について

考査範囲は、教科書のページと問題集の番号を伝えます。生物の学習は、教科書を理解した上で問題集を解くと良いでしょう。問題数は多いので、考査2週間前には準備を始めましょう。基本問題から発展問題まで十分に理解できれば、考査、共通テスト、個別試験に対応できる学力がつきます。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

生物
生物基礎

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生命現象について関心を持ち、意欲的に探究しようとする。 日常生活や社会との関連を図りながら、科学的な見方や考え方を身に着けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①定期考査等 ②レポート等 ③考査復習課題等 	①②③ 提出、内容が良好	①②③ 提出できている	①②③ 未提出
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生命現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に着けている。 	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生命現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分

観点別評価ルーブリック

教科 SS生物
 科目 SS生物

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生命現象について関心を持ち、意欲的に探究しようとする。 日常生活や社会との関連を図りながら、科学的な見方や考え方を身に着けている。 	①定期考査等 ②レポート等 ③考査復習課題等	①②③ 提出、内容が良好	①②③ 提出できている	①②③ 未提出
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生命現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に着けている。 	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 生物や生命現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。 	定期考査等	該当問題の得点率が良好	該当問題の得点率が良	該当問題の得点率が不十分

観点別評価ルーブリック

教科 理科
科目 SS理数化学、化学基礎

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成・構成粒子，粒子の結合，物質と化学反応式，酸と塩基の反応，酸化還元反応についての基本的な概念や原理・法則を具体的な性質や反応と結び付けて理解している。 日常生活や社会との関連を図りながら，化学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 	小テスト 定期考査 行動観察等	該当問題の得点率が十分に満足できる。	該当問題の得点率がおおむね満足できる	該当問題の得点率がよりいっそうの努力を要する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 物質の構成，物質の変化とその利用について，それらの規則性や関係性を見いだして表現する力を身に付けている。 物質とその変化を対象に，概念や原理・法則を新しい事象の解釈に応用し表現したり，情報の収集，仮説の設定，実験の計画，実験による検証，実験データの分析・解釈などの探究の過程や結果を判断・考察したりする力を身に付けている。 	小テスト レポート 定期考査 行動観察等	<p>該当問題の得点率が十分に満足できる。</p> <p>レポートや発表による自己の思考や判断についての表現力に優れ、レポート内容などを高く評価できる。</p>	<p>該当問題の得点率がおおむね、満足できる。</p> <p>しかし自己の思考や判断についての表現力、レポートなどの成果が標準的である。</p>	<p>該当問題の得点率が標準より劣る。</p> <p>自己の思考や判断についての表現力に乏しくレポートなどの成果が不十分である。</p>
学習主体に的を取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 物質とその変化について対して主体的に関わり，化学が日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを認識しようとしている。 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。 	再テスト テスト解き直し レポート 定期考査 行動観察等	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況が良好で、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動の意欲が高く、自己の学習への振り返り・改善への意欲を行い、行動が前向きである。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況は良好であるが、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準的である。	課題の提出状況および授業での学習班・実験班での活動状況の取り組みや、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動に乏しい。

5 体育（第1学年）

（1）高等学校で『体育』を学ぶ意義

高校教育の中で、体育に課せられた使命を考えてみよう。

現代は、IT機器の発達と普及、医学の進歩、機械化による労力の軽減、更に余暇においても機械抜きでは楽しめない時代である。情報があふれ、人と人とのコミュニケーションも大きく変化し、精神的緊張を強いる社会の中での生活は、人々に多くのストレスを与える。このような時代では、身体と精神を逞しく維持していかなければ、健康に生きていけない。なぜならば、人間らしさは機械の力にだけ頼っては獲得できないからだ。有意義な人生を送るためには、健全な精神と堅強な身体とを兼ね備えることが重要となる。スポーツの重要性はまさにここで発揮され、成長期の最終段階における高校期に体育を学ぶことにより、その充実と発達が期待できる。

高等学校における体育の授業において理論や内容は、単なる知識の獲得だけではない。自らの生活の中に取り入れ、生涯にわたり活用することによって、初めてその体育授業が活かされてくる。

本校では、君達がより積極的に授業に取り組み、高度なスポーツの経験と科学的な運動(スポーツ)理論を学び、正しい運動方法により、生涯にわたって継続してスポーツを実践できる知識と技能を獲得することを目指している。

（2）体育の指導目標

「自主・自律・創造」の校訓のもと、「生きる力」を身につけ、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送ることができる社会に有用な若者を育成する。そのために、以下の項目に重点を置き指導する。

1. 健康な人生を送るための体力向上
2. 自ら進んで継続して身体活動を実践するための知識と技能の習得
3. 礼節を重んじ、仲間と協同し責任を持って行動できる精神の育成

（3）1学年の学習について

1. 指導目標

- ・ 各種の運動の合理的な実践を通して運動技能を高め、強健な心身の発達を促すとともに、公正・協力・責任等の態度と積極的に運動する能力と態度を育てる。
- ・ 自己の能力に応じて目標を設定し達成できるようにする。
- ・ 安全に留意し協力して課題達成ができるよう補助方法等も学ぶ。

2. 評価について

授業態度（積極的な活動、体力の向上・技能の習得）、出欠状況、スキルテストの内容、個人・グループノートの内容、ルールやマナーの理解度を基に以下の3つの観点から総合的に評価する。

知識・技能

- ・ 自己やグループの運動能力と競技の特性に応じた課題解決や、戦術の理解を目指して運動を行うことができる
- ・ 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身に付けている
- ・ 運動の技能の構造と運動の学び方を理解している
- ・ 各競技のルール、練習方法、戦術について理解をしている

思考・判断・表現

- ・自己やグループの能力と競技の特性に応じた課題を発見し、合理的、計画的な解決に向け思考し判断している。
- ・課題を解決するために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。

主体的に学習に取り組む態度

- ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正・協力・責任などの態度が身に付いている。
- ・礼節を重んじ、仲間と協力して運動を行ったり、用具の準備や後片づけ、施設・設備の整備を積極的に行ったりしている。
- ・健康や安全に留意して、自ら運動をしようとしている。

3. 授業について

1) 単位数 普通科3単位・理数科2単位

2) 授業内容について

① 時間厳守

- ・授業には定刻前に余裕を持って集合する。集合場所については体育委員が事前に教科担当に確認し、クラスの生徒に連絡をする。
- ・特に1時限目に授業がある時は、朝のSHR前に更衣をすませ授業開始時刻に遅れないように努力する。

② 出席重視

- ・体育は実技科目なので特に出席を重視する。授業に対する姿勢・態度を重視するので授業に前向きに取り組むことが重要である。
- ・やむを得ず見学をする場合は生徒手帳の諸届・許可欄に必要事項を記入し、授業の1時間前に教科担当に報告し、指示を受ける。傷病等で長期にわたって見学をする場合は、診断書等の提出をする。

③ 体育着等の保管

- ・体育で使用するものにはすべて記名をし、各自の責任において保管すること。常に清潔に保つことにも留意する。特に体育館シューズ・シューズ袋には大きな字で記名し、他の生徒のシューズと取り違えることのないようにする。

④ 大きな声で体操・挨拶

- ・授業時の挨拶は大きな声でし、体操・補強等の号令も全員で大きな声でかける。

⑤ 貴重品の管理

- ・体育授業時に教室や更衣室で更衣をする際には各自の貴重品は個人ロッカーに入れ、各自で管理すること。

⑥ 安全確認

- ・用具の出し入れは、自ら進んで行き、安全に活動できるように留意する。自分の健康管理、安全はもとより、周囲のものの安全にも心がける。

3) 授業の進め方（体育実技）

授業の進め方は概ね以下の通りである。

ランニング→集合→あいさつ・点呼→体操・補強→本時の説明→「活動」→整理体操→あいさつ

4) 柔道着・水着・長袖Tシャツの販売について

購入案内文書の配布、申込み、販売については以下の通りである。

	文書の配布	申込み	販売
水着	5月上旬	5月中旬	5月下旬
柔道着	9月上旬	無し	9月上旬
長袖Tシャツ	9月下旬	10月上旬	10月下旬

販売場所は本校体育館入り口で行う。販売当日、代金(おつりのないよう)を持参し受け取る。

※ 柔道は男子の体育授業で履修する。使用できる柔道着を持っている場合を除き、男子は全員購入する。

※ 水泳は男女とも1・2学年で履修する。中学校の体育等で使用したスクール水着(黒・紺系色)・水泳帽を所持されている場合を除き、全員が購入する。

※ 長袖Tシャツ(ネーム刺繍有)は希望者を対象に販売する。

5) その他

- ・4月～10月は半袖 or 長袖Tシャツ、ハーフパンツ。
- ・禁止事項：タイツ、ストッキング、アクセサリ類の着用。
- ・体育用のソックスを用意。
- ・運動制限や健康上の不安等がある場合、必ず担当教諭に相談すること。

(4) 学習内容

領域	領域の内容・単元	第1学年		第2学年		第3学年	備考
		男	女	男	女	男女共修	
体育理論		●	●	○	○	○	
体づくり	体力を高める運動(持久走)	●	●	○	○	○	
	体をほぐす運動	●	●	○	○	○	
陸上競技	長距離走	●	●	○	○	○	
	三種競技(走・跳・投)	●	●			□※1	
水泳	各種泳法	●	●	○	○		※2
	遠泳・競泳(複数の泳法)	●	●	○	○	□※1	※3
武道	柔道	●		○		□※1	
器械運動	マット運動		●	○			※4
	跳び箱運動		●	○		□※1	
	鉄棒運動		●	○			
球技	ゴール型	バスケットボール		●	○		□※1
		ハンドボール	●			○	□※1
		サッカー	●	●			□※1
	ネット型	バレーボール			○	○	□※1
		テニス					□※1
		バドミントン					□※1
		卓球					□※1
	ベースボール型	ソフトボール					□※1

※1 選択授業

※2 1年次にクロール・平泳ぎ、2年次に背泳ぎ・バタフライを行う

※3 1年次は2種類の泳法・2年次は4種類の泳法で行う

※4 3種目の運動の中から1種目または2・3種目を行う

(5) 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名		副教材等		
体育		普通科 3 理数科 2	新高等保健体育				
【到達目標】		<ul style="list-style-type: none"> ・ 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能の習得と、体力の向上が見られる。 ・ 公正・協力・責任等の態度と積極的に運動する能力と態度が身につく。 ・ 自己の能力に応じて目標を設定し達成できる。 ・ 安全に留意し協力して課題達成ができるよう補助方法等を習得する。 					
学期	月	男子		女子		自己チェック項目	
		領域	内容	領域	内容		
第一学期	4月	上旬	体育理論（スポーツの歴史的発展と変容・スポーツの技術，戦術，ルールの変化）				
		中旬	体作り運動	体力を高める運動	体作り運動	体力を高める運動	
		下旬	陸上競技	持久走 1500m	陸上競技	持久走 1000m	
	5月	上旬		三種競技（走・跳・投）	器械運動	マット運動	
		中旬					
		下旬					鉄棒
	6月	上旬	水泳	泳法（クロール・平泳ぎ） 距離泳・時間泳	水泳	泳法（クロール・平泳ぎ） 距離泳・時間泳	
中旬							
下旬							
7月	上旬						
第二学期	9月	上旬	体作り運動	体ほぐし運動	体作り運動	体ほぐし運動	
		中旬	球技	ハンドボール	陸上競技	三種競技（走・跳・投）	
		下旬					
	10月	上旬	武道	柔道	球技	サッカー	
		中旬					
		下旬					
	11月	上旬	体育理論（オリンピックムーブメントとドーピング）				
中旬		陸上競技	長距離走 約 5 km	陸上競技	長距離走 約 4 km		
下旬							
12月	上旬	武道	柔道	球技	サッカー		
	中旬						
第三学期	1月	上旬	体作り運動	体力を高める運動	体作り運動	体ほぐし運動	
		中旬	球技	サッカー	球技	バスケットボール	
		下旬					
	2月	上旬					
		中旬					
		下旬					
	3月	上旬					
中旬		体育理論（スポーツの経済的効果とスポーツ産業）					

その他

5 保健（第1学年）

（1）高等学校で『保健』を学ぶ意義

大学受験の小論文のテーマに「保健」・「環境」・「医療問題」がテーマになることはあっても受験科目に「保健」は存在しない。何故、高校のカリキュラムに「保健」があるのだろうか。

情報化社会は我々に十分すぎる情報を提供するとともに、大きなストレスを与える。技術の進歩は生活を豊にしてくれるとともに、人と人との直接的なコミュニケーションを阻害する。医学や医療の進歩は我々の平均寿命は世界トップに押し上げ、価値観の多様化による少子化と重なり、超高齢化社会は目の前に迫っている。「ネット異存社会」・「ストレス社会」・「超高齢化社会」・「自然環境の崩壊」の中で我々は生活している。一生この世界で生きていかなければならない。

更に、法律の改正により選挙権は18才以上になった。高校1・2年次に「医療保険制度・介護保険・公衆衛生等の我が国における社会構造」について学び、「環境問題・医療問題・社会問題等の本質は何か」を考えることは有権者の義務であり責任である。

保健の授業で学ぶ内容を知識としてとらえるだけではなく、自分の問題として解決しようとする心と態度を育てることが本校の「保健」授業のテーマであり、高等学校で『保健』を学ぶ意義である。

（2）保健の指導目標

「自主・自律・創造」の校訓のもと、「生きる力」を身につけ、自らの「志」に向かって努力し、生涯にわたって運動に親しみ、健康な生活を送ることができる社会に有用な若者を育成する。そのために、以下の項目に重点を置き指導する。

1. 生涯を通じて自らの健康を管理し、改善していくための資質や能力の育成
2. 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深め、正しく判断し行動できる能力の育成

（3）1学年の学習について

1. 指導目標

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。

2. 評価について

各学期の期末考査の得点を基準とし、以下の項目を加え総合的に評価する。

- 授業における提出物・レポート・課題・ノートの内容
- 長期休業中におけるフィールドワークレポートの内容
- 個人やグループの課題研究の内容
- 様々なレポートや研究活動の発表の内容やそれに対する評価
- 応急手当及び心肺蘇生法の技能（1学年）

(4) 年間学習計画

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
保健		1	新高等保健体育 (大修館書店)	
学期	月	領域	内容	備考
第一学期	4月	現代社会と健康	①日本における健康課題の変遷	
			②健康の考え方と成り立ち	
			③ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり	
	5月		④健康に関する意思決定・行動選択	
			⑬喫煙と健康	
	6月		⑭飲酒と健康	
			⑮薬物乱用と健康	
7月	⑯	期末考査		
第二学期	9月	⑤現代における感染症の問題		
		⑥感染症の予防		
		⑦性感染症・エイズとその予防		
	10月	⑧生活習慣病の予防と回復		
		⑨身体活動・運動と健康		
	11月	⑩食事と健康		
		⑪休養・睡眠と健康		
	12月	⑫がんの予防と回復		
⑰精神疾患の特徴				
		⑱精神疾患への対応	期末考査	
第三学期	1月	①事故の現状と発生要因		
		②交通事故防止の取り組み		
		③安全な社会の形成		
	2月	④応急手当の意義と救急医療体制		
		⑤心肺蘇生法		
	3月	⑥日常的な応急手当		
		心肺蘇生法の実習	学年末考査	

参考資料

高等学校学習指導要領 内容のまとめ「保健体育」

観点別評価ルーブリック

教科
科目

保健体育
体育

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの運動能力と競技の特性に応じた課題の解決や、戦術の理解を目指して運動を行うことができる。 自己の体力や生活に応じて体力を高めるための合理的な運動の行い方を身に付けている。 運動技能の構造と運動の学び方理解している。 各競技のルール、練習方法、戦術について、言ったり書きだしたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方の理解 技能の習得 体力の向上 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫改善 (単元テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 各競技における運動技能の習得 自己の運動能力に応じた運動強度 各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解 <p>以上の項目を8割以上達成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各競技における運動技能の習得 自己の運動能力に応じた運動強度 各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解 <p>以上の項目を4割以上8割未満達成できている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各競技における運動技能の習得 自己の運動能力に応じた運動強度 各競技の運動特性、ルール、練習方法、戦術の理解 <p>以上の項目が4割未満で達成できている。</p>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 自己やグループの能力と競技の特性に応じた課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断している。 課題を解決するために、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方の理解 技能の習得 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫改善 (単元テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、自己やグループの課題解決に積極的に取り組んでいる。 自己の思考や判断について表現力が優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、自己やグループの課題解決に取り組んでいる。 自己の思考や判断についての表現力が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに、課題解決に取り組むことが乏しい。 自己の思考や判断についての表現力が乏しい。
学習主体的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう公正・協力・責任などの態度が身に付いている。 礼節を重んじ、仲間と協力して運動を行ったり、用具の準備や後片付け、施設・設備の整備を積極的に行ったりしている。 健康・安全に留意して、自ら運動をしようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の行い方の理解 技能の習得 自己や仲間の課題の発見 練習方法の工夫改善 (単元テスト) 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が優れている。 授業への参加状況、学習カードの提出が良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が標準である。 授業への参加状況、学習カードの提出が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の学習への振り返り・改善への意欲・行動が乏しい。 授業への参加状況、学習カードの提出が乏しい。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

保健体育
保健

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 個人及び社会生活における健康、安全について理解したことを言ったり書いたりしている。 ※応急手当について、習得した知識及び技能を適切に実践することができる。(1年) 	課題研究 定期考査等 心肺蘇生法 (1年)	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が8割以上達成できている。	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が4割以上8割未満達成できている。	①課題研究 ②該当問題得点率 ※応急手当及び心肺蘇生法の技能 (1年) 以上の項目が4割未満達成できている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 健康について、自他や社会の課題を発見し、合理的計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。 	課題研究 定期考査等	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究による自己の思考や判断について、表現力が優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究による自己の思考や判断について、表現力が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究による自己の思考や判断について、表現力が乏しい。
学習主体に取的に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 自他の健康やそれを支える環境づくり及び安全な社会の形成に興味を持ち、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。 課題研究や学習活動を振り返り、その結果を考察し、評価及び改善しようとしている。 	課題研究 自己評価 他者評価	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り、改善への意欲が優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り、改善への意欲が標準である。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学習に取り組み、自己の学習への振り返り、改善への意欲が乏しい。

音楽

1 音楽 I

「音楽 I」は中学校における学習を基礎にして、「A 表現」（歌唱・器楽・創作）及び「B 鑑賞」についての幅広い活動を展開し、「音楽 II」や専門科目における発展的な学習の基礎を養います。

2 目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成することを目指します。

3 評価の観点

- 1 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする
- 2 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする
- 3 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う

4 1 学年の学習内容

【表現】

歌唱・器楽・創作

- ・表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって表現を創意工夫する
- ・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わりを理解する
- ・言葉の特性と曲種に応じた発声、曲種と楽器の音色や奏法との関わりを理解する
- ・様々な表現形態による表現の特徴を理解する
- ・創意工夫を生かした表現をするために必要な技術を身に付ける

【鑑賞】

- ・鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴く
- ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解する

5 その他

- ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考える
- ・音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解する

第1学年

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
音楽 I		2	MOUSA①	My Song
【到達目標】		① 音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせられるようにする ② 生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を育成する		
【学習上の留意点】		① 授業への取り組みや提出物も重視しています ② 期考査は実施しませんが、授業内に実技テストや発表があります		
月	テスト	進度（単元）		自己チェック項目
4月～ 5月	1学期 中間 未実施	≪表現≫ 歌唱・合唱 器楽		<input type="checkbox"/> 表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって表現を工夫したか <input type="checkbox"/> 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、その表現上の効果を理解したか <input type="checkbox"/> 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解したか
6月～ 7月	1学期 期末 未実施	≪鑑賞≫ 西洋音楽 音楽の要素とイメージ		<input type="checkbox"/> 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いたか <input type="checkbox"/> 音楽の要素とイメージについて理解したか
9月 ～ 10月	2学期 中間 未実施	≪表現≫ 歌唱・合唱 器楽 創作		<input type="checkbox"/> 表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって表現を工夫したか <input type="checkbox"/> 曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解したか <input type="checkbox"/> 創意工夫を生かした創作活動をするために必要な技能を身に付けたか
11月 ～ 12月	2学期 期末 未実施	≪鑑賞≫ 西洋音楽 さまざまな主題とその構成		<input type="checkbox"/> 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさを味わって聴いたか <input type="checkbox"/> 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解したか
1月 ～ 3月	3学期 学年末 未実施	≪表現・鑑賞≫ 歌唱・合唱 情景を描く音楽 合唱発表		<input type="checkbox"/> 様々な表現による表現の特徴を理解したか <input type="checkbox"/> 創意工夫を生かした表現に必要な技術を身に付けたか <input type="checkbox"/> 音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解したか

観点別評価ルーブリック

教科
科目

音楽
音楽Ⅰ

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。	表現 鑑賞 発表 提出物	音楽を形づくっている要素を理解し、音楽表現するために必要な技能を身に付けている 7割以上達成できている	音楽を形づくっている要素を理解し、音楽表現するために必要な技能を身に付けている 4割以上7割未満達成できている	音楽を形づくっている要素を理解し、音楽表現するために必要な技能を身に付けている 4割未満達成できている
思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	表現 鑑賞 発表 提出物	音楽を形づくっている要素について思考し、自己のイメージや表現意図を判断しながら、表現活動している 7割以上達成できている	音楽を形づくっている要素について思考し、自己のイメージや表現意図を判断しながら、表現活動している 4割以上7割未満達成できている	音楽を形づくっている要素について思考し、自己のイメージや表現意図を判断しながら、表現活動している 4割未満達成できている
主体的に学ぶ態度	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	表現 鑑賞 発表 提出物	主体的かつ協働的に音楽活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しもうとしている 7割以上達成できている	主体的かつ協働的に音楽活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しもうとしている 4割以上7割未満達成できている	主体的かつ協働的に音楽活動に取り組み、感性を高め、音楽文化に親しもうとしている 4割未満達成できている

美術

1 美術ってなに

美術って何だろう。みなさんの身の回りを見渡して見て下さい。家具がありますね、建物がありますね、服をまとっていますね、スマホを持っていますね。これらすべての物は美術に関係したものです。現代の美術は、生活の一部であり社会とのかかわりが大きい分野です。そして、社会を見渡せば美術に関連した仕事や商品などがたくさんあります。

では、なぜ学ぶのだろうか。美術を学ぶ意味は、作品を描き作ることを通して「人間を知ること」です。例えば、文学でも歴史学・経済学でも人間を研究する学問であり、また理数系も自然界の法則について研究する物理や化学や数学や薬学などありますが人間の体内での化学変化などを調べているわけです。分野や方法は違っても人間を知ることには変わりはないのです。美術を通して試行錯誤を繰り返し、自分と向き合ってみましょう。

2 目標

美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化について理解を深める。

3 評価の観点

- 知識・技能
- 思考・判断・表現
- 主体的に取り組む態度

4 1年次の学習内容

(1) 【絵画】

- ア 感じ取ったことや考えたことから主題を生成する。
- イ 表現形式の特徴を生かし、形体、色彩、構成などを工夫して創造的な表現の構想を練る。
- ウ 意図に応じて材料や用具の特性を生かす。
- エ 表現方法を工夫し、主題を追求して表現する。

(2) 【デザイン】

- ア 目的、機能、美しさなどを考え主題を生成する。
- イ 表現形式の特性、形や色彩などの造形要素の働きを考え、創造的な表現の構想を練る。
- ウ 意図に応じて材料や用具の特性を生かす。
- エ 表現方法を工夫し、目的や計画をもとに表現する。

5 その他

- 必要な美術道具については、授業が開始されてからお知らせします。
- 美術系及び建築系への進学を考えている者は、実技試験や作品が必要になるので早めに試験対策に取り組んでください。

第1学年

科目名等		単位数	教科書名	副教材等
美術 I		2	高校生の美術 1 (日本文教出版)	
【到達目標】		①油絵の制作を通して基礎・基本を踏まえて対象を深く観察し、造形美の表現を学びます。 ②視覚伝達デザインの基礎を理解し、社会と美術のかかわりについて学びます。		
【学習上の留意点】		①授業時間ごとの取り組みや提出物を重視しますので、毎時間完結するつもりで受講してください。 ②中間及び期末テストは実施しません。		
月	テスト	進度 (単元)		自己チェック項目
4月～ 5月	1学期 中間 未実施	≪作品制作≫ 油絵「静物画」		<input type="checkbox"/> デッサンについて学ぶことができたか。 <input type="checkbox"/> 幾何形体を使い、形の取り方について理解できたか。 <input type="checkbox"/> 構図の取り方を理解できたか。 <input type="checkbox"/> 静物画をデッサンする。 <input type="checkbox"/> 油絵の道具を適切に扱うことができたか。
6月～ 7月	1学期 期末 未実施	≪作品制作≫ 油絵「静物画」		<input type="checkbox"/> 着色の表現について理解できたか。(おつゆ描き) <input type="checkbox"/> 油絵の特徴を生かし石膏や透明瓶などのモチーフを描くことができたか。 <input type="checkbox"/> 作品を鑑賞し、良さを自分の作品へ生かすことができたか。 <input type="checkbox"/> 制作を振り返り、ポートフォリオを作成できたか。
9月 ～ 10月	2学期 中間 未実施	≪作品制作≫ デザイン「果物を使った平面構成」 ≪調べ学習≫ デザインに関するテーマ		<input type="checkbox"/> 社会とデザインの関わりが理解できたか。 <input type="checkbox"/> 果物の特徴を捉えてデッサンスケッチができたか。 <input type="checkbox"/> 果物をイラスト化するために発想の工夫がみられるか。 <input type="checkbox"/> 作品の完成度を高めることができたか。 <input type="checkbox"/> 質感の表現や配色に工夫がみられるか。
11月 ～ 12月	2学期 期末 未実施	≪作品制作≫ デザイン「果物を使った平面構成」 ≪調べ学習≫ デザインに関するテーマ		<input type="checkbox"/> モチーフを用いて画面を構成し、イラストをレイアウトできたか。 <input type="checkbox"/> ただ描写するだけでなく、どう見せるのか、どう構成するのか、どう組み合わせるのか。主役とわき役の関係やバランスをとることができたか。 <input type="checkbox"/> 着色方法を理解し、美しい彩色ができたか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。
1月 ～ 3月	3学期 学年末 未実施	≪作品制作≫ デザイン「果物を使った平面構成」 ≪調べ学習≫ デザインに関するテーマ		<input type="checkbox"/> 作品を完成させることが出来たか。 <input type="checkbox"/> 作成を振り返り、ポートフォリオを作成できたか。 <input type="checkbox"/> 学期を通して調べ課題に取り組めたか。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

美術
美術 1

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができている。	・ 絵画制作 ・ デザイン制作	①構図・構成や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果 ②造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風などの表現 ③絵具などの材料や用具の生かし方を身に付ける。 ④目的や意図に応じて、その特性や効果を生かしながら表現を工夫し創造的に表している。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①構図・構成や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果 ②造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風などの表現 ③絵具などの材料や用具の生かし方を身に付ける。 ④目的や意図に応じて、その特性や効果を生かしながら表現を工夫し創造的に表している。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①構図・構成や色彩などの性質やそれらが感情にもたらす効果 ②造形的な特徴などをもとに、全体のイメージや作風などの表現 ③絵具などの材料や用具の生かし方を身に付ける。 ④目的や意図に応じて、その特性や効果を生かしながら表現を工夫し創造的に表している。 以上の項目が4割未満で達成できている。
思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができている。	・ 絵画制作 ・ デザイン制作 ・ 鑑賞	①自己分析や観察による発見から主題を生成し、全体と部分の関係や構図や表情などの効果を考えている。 ②形体や色彩などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 ③造形的なよさや美しさを感じ取っている。 ④作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①自己分析や観察による発見から主題を生成し、全体と部分の関係や構図や表情などの効果を考えている。 ②形体や色彩などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 ③造形的なよさや美しさを感じ取っている。 ④作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①自己分析や観察による発見から主題を生成し、全体と部分の関係や構図や表情などの効果を考えている。 ②形体や色彩などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。 ③造形的なよさや美しさを感じ取っている。 ④作者の心情や表現の意図と工夫について考え、見方や感じ方を深めている。 以上の項目が4割未満で達成できている。
学主体に的取りに取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度が養われている。	・ 絵画制作 ・ デザイン制作 ・ 鑑賞	①自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ②作品や歴史から広い視野を身に付けたため、主体的に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組んでいる。 以上の項目が7割以上の達成できている。	①自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ②作品や歴史から広い視野を身に付けたため、主体的に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組んでいる。 以上の項目が4割以上7割未満の達成できている。	①自己分析したり、主体的に感じ取ったことや考えたことをもとに表現の学習に取り組んでいる。 ②作品や歴史から広い視野を身に付けたため、主体的に見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組んでいる。 以上の項目が4割未満で達成できている。

令和6年 書道

1) 書道 I

書道の「道」とは何だろう。

剣を、柔を、お茶を、お花を、書、それぞれを通して道を学びます。道とは中国の儒教思想では「人間の生き方」を示します。授業では中国の古典を中心に様々な文字の手本を見て「そっくりを書く」ことをくりかえし行います。「そっくりを書く」ことは、考えること、想像することです。しっかり考えて手本を見、白い半紙にしっかり想像して書くことを学びます。書を通して自分自身を見つめてみましょう。

埼玉県は47都道府県の中で最も文字が上手に書ける県民です。小中学校で学んだ硬筆、書初めを全員が学んでいるからです。自信をもって楽しく学びましょう。

2) 目標

書くことと、文字(漢字)の歴史を学び、生涯に渡り最も身近な文字の美しさを理解し表現する力を高めます。

3) 評価の観点

- ・書への関心、意欲、態度
- ・見る力、考える力、想像力
- ・表現の技術力
- ・道具の使い方
- ・ノート作成

4) 1年生の学習内容

ア、文字の発生と漢字の歴史

イ、楷書の学習(唐代の古典中心)

ウ、行書の学習(東晋の王羲之、日本の空海中心)

エ、隷書の学習(B.C. 200~A.D. 200 漢の書)

オ、仮名の学習(日本の平安時代の和歌・日本の文字の起源と発展の歴史。平安時代の和歌による変体仮名の読み)

5) 授業の仕方

- ・毎時間ごとに提出作品があります。(欠席・公欠の場合、後に必ず提出のこと)
- ・ノート(必ずA4)を用意し授業内容をしっかりとノートに取ります。(定期考査時に集めてチェックします)

その他)

授業に必要な用具

(大筆・小筆・墨液・硯・文鎮・半紙・教科書)

下敷きは学校で用意します。

*筆については最初の授業で点検し、適合しない筆は購入してもらいます。

科目名等	単位数	教科書名	副教材等
書道 I	2	教育出版 書道 I	なし
【到達目標】	①漢字の発生と発展から楷書完成までの歴史を学び理解する。 ②中国の古典を觀賞し、半紙にそっくりに臨書する。 ③漢字から仮名への変化を学び平安時代の和歌に触れる。		
【学習上の留意点】	①授業ごとに提出作品があります。（欠席・公欠の時は後日提出のこと） ②ノートを作り、毎授業ごとのノートをきちんと取ります。（チェック有） ③中間・期末テストは実施しません。		
月	テスト	進度（単元）	自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の発生と発展から楷書完成 楷書の基本点画 執筆法 楷書の学習（九成宮醜泉銘をしる） 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の歴史を理解できたか 楷書の基本点画を理解できたか 手本をしっかり見る觀賞力を身に付けたか
6月 ～ 7月	1学期 期末	<ul style="list-style-type: none"> 楷書の学習 造像記 鄭義下碑 墓誌銘 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な筆使いを理解し表現できたか 筆の使い方（執筆法）を理解できているか
9月 ～ 10月	2学期 中間	<ul style="list-style-type: none"> 行書の学習 蘭亭序（王羲之） 風信帖（空海） 	<ul style="list-style-type: none"> 行書の筆使いを理解できたか 線の流れを理解できたか
11月 ～ 12月	2学期 期末	<ul style="list-style-type: none"> 隸書の学習 隸書の基本点画 曹全碑 仮名の学習 仮名の発生と発展 	<ul style="list-style-type: none"> 隸書の時代（漢時代）を理解できたか 隸書の筆使いを理解できたか 日本の仮名の歴史を理解したか
1月 ～ 3月	3学期 学年末	<ul style="list-style-type: none"> 仮名の学習 平仮名と変体仮名 蓬萊切（臨書） 高野切れでの和歌の読み （グループで初見の和歌を読み発表） 	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名と変体仮名の違いを理解できたか 平安時代の和歌を読めるか 小筆の使い方を理解できたか

*教材費の徴収があります。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

書道
書道 1

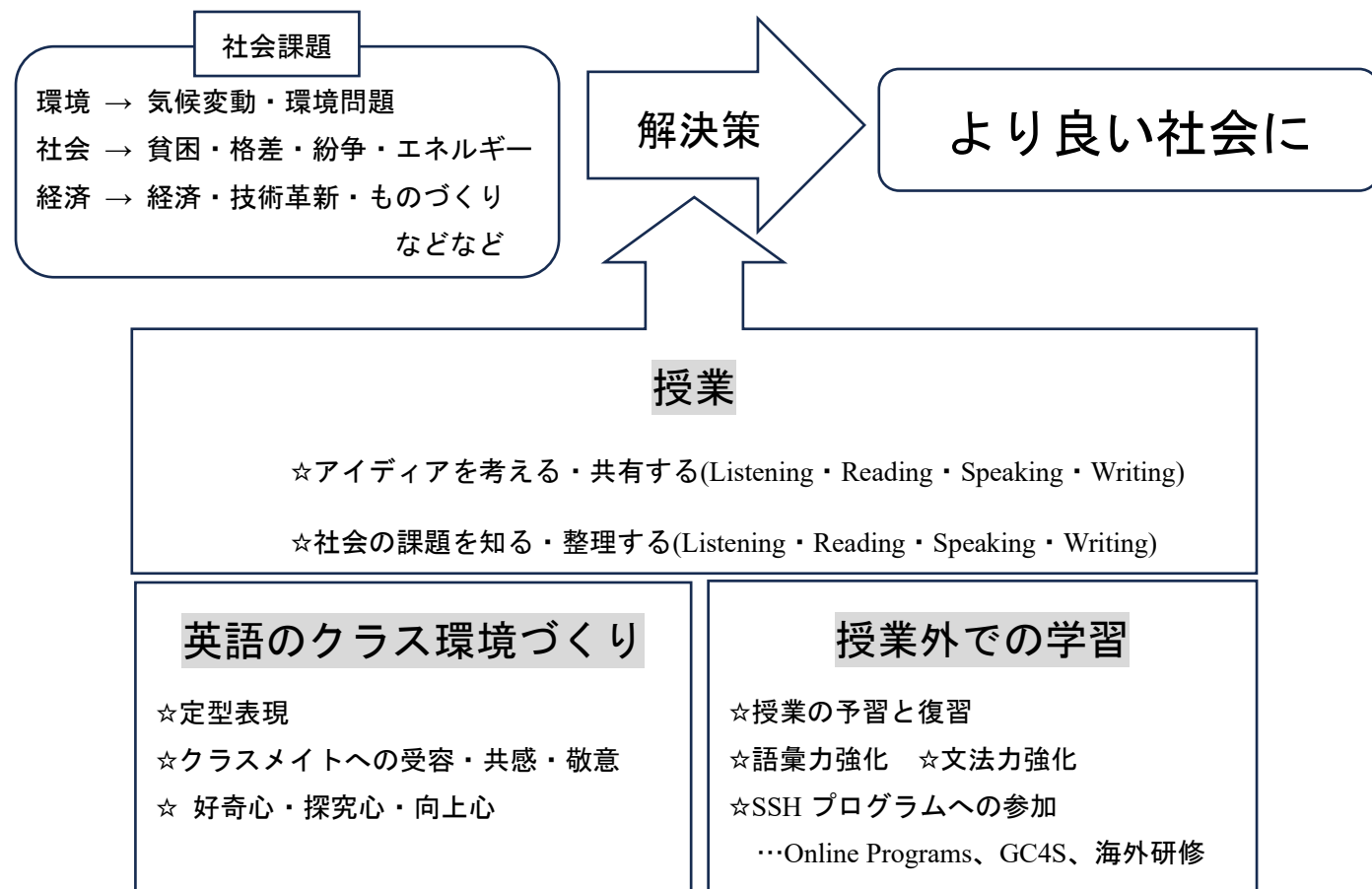
観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・臨書作品制作 ・漢字、仮名 ・鑑賞 	中国、日本の歴史(AD1100まで)の対比を理解する・漢字、仮名文字の発生と発展の歴史を理解する。大筆、小筆の基本的な筆使いの習得。時代の変化による字体の違いを鑑賞し理解する。日本の漢字かな交じりの表現定着の経緯を理解する。自分の名前を美しく書けるようにする。 ・該当課題の7割以上理解表現を達成することができた。	・該当課題の7割未満から4割以上理解表現を達成することができた。	・当該課題の4割未満の理解表現を達成することができた。
思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・臨書作品制作 ・漢字、仮名 ・鑑賞 	中国の殷の甲骨文字から楷書の完成までの経緯を理解し違いを鑑賞する。漢字に合わせた筆使いの違いを理解する。仮名(平安古今和歌集)の読み方小筆の使い方を理解する。仮名の字源を理解する。半紙臨書における空間域の大切さの意味を理解する。墨の黒と余白の白のバランスを理解する。 ・該当課題の7割以上理解表現を達成することができた。	・該当課題の7割未満から4割以上理解表現を達成することができた。	・当該課題の4割未満の理解表現を達成することができた。
学習主体的に取り組む態度	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造してゆく態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・臨書作品制作 ・漢字、仮名 ・鑑賞 	書道ノートの作成(学期末に感想文も記載し提出)。課題作品の毎回提出(含公欠、欠席時)。積極的な授業への参加(授業中の添削、挨拶、発言、居眠り、声の大きさ。書道用具の忘れ物)。左利きの生徒への配慮。出欠席の割合(実技教科)。 ・該当課題の7割以上理解表現を達成することができた。	・該当課題の7割未満から4割以上理解表現を達成することができた。	・当該課題の4割未満の理解表現を達成することができた。

令和6年度 英語

①大きな目標

社会課題を解決できる力を身につける in English = 社会で求められている力 + 世界の人々と

②コンセプトマップ



③授業紹介

英語コミュニケーションⅠ

持ち物

教科書 Heartening ・ワークシート・Workbook・単語帳 LEAP・参考書 Factbook・辞書(iPad のアプリ)
各定期考査 2 レッスンずつ進みます。

予習・復習

ワークシート：本文を理解して、問題に答える。

Workbook：本文内容の復習。各章終了時ごとに提出。

LEAP：学んだ語彙を授業で使う。Weekly Test 範囲。

参考書 Factbook：出てきた文法の構造・意味・使い方を調べる。Weekly Test 範囲。

音読

授業

論理・表現Ⅰ

持ち物

教科書 FACTBOOK・マイノート・FACTBOOK ワークブック・参考書 Factbook・辞書(iPad のアプリ)
各定期考査2レッスンずつ進みます。

予習・復習

マイノート：授業のアクティビティのための予習

Essay Writing：Unit ごとに1.2回

LEAP：学んだ語彙を授業で使う。Weekly Test 範囲。

参考書 Factbook：出てきた文法の構造・意味・使い方を調べる。Weekly Test 範囲。

FACTBOOK ワークブック：参考書で学んだことを確認する。Weekly Test 範囲。

授業

Speak：4人グループで実施。Speaker A, Speaker B, Facilitator, Judge と役割を担う。

Write：題材に関連したライティングを行う。

第1学年 英語コミュニケーションⅠ 単位数 普通科3単位 理数科3単位

1. 目標

聞いたり読んだりしたことを活用し、話したり書いたりするなどの総合的な言語活動を通して、4つの領域を総合的に扱い、総合的な英語運用能力を伸ばす。

2. 使用教材と用途

テキスト関連			
Heartening I	Heartening Workbook	総合英語 FACTBOOK これからの英文法	必携英単語 LEAP
			
授業で主に使う教科書。 予習の必要あり。	復習用のワークブック。定期的 に出有り。	自分で学習するのに使う文法書。	単語帳。Weekly Test 出題範囲。
Applications		Work Sheet	
	本文や単語を聞いて、正しい英語の発音を習得したり、暗唱例文を覚えたりするために使しましょう。マイク付きイヤホン推奨。		①教科書の内容理解をさらに深め発展させるため ②学んだ知識を活用し使うためのものです。単元終了後は必ず提出しましょう。

3. 指導計画

		Contents	言語材料	言語活動	Weekly Test
1 学 期	中 間	Lesson 1 : Bringing Out the Best in Himself (スポーツ、物語文) Lesson 2 : Hold On, Anzu! (動物、物語文)	時制 完了形	Essay Writing Speech Conversation	必携英単語 LEAP * スケジュール は別紙
	期 末	Lesson 3 : We Can Make a Difference (環境、説明文・意見文) Lesson 4 : Creative Problem Solving (心理学、論証文)	助動詞 受動態 前置詞	Retelling Debate Presentation	
2 学 期	中 間	Lesson 5 : Canned Bread to Feed the World (食糧問題、物語文) Lesson 6 : Could We Have a Real Jurassic Park? (科学・生物、説明文)	不定詞 動名詞 文型	* スケジュールは 別紙	

	期末	Lesson 7 : Behind the Price Tag (経済、説明文・意見文) Lesson 8 : The World's Winter Festivals (文化、説明文)	分詞 比較		
	3 学年 期末	Lesson 9 : Talking Trees (生物・科学、説明文) Lesson 10 : Capturing the Reality of the World (生き方、物語文)	関係詞 仮定法		

第1学年 論理・表現 I 単位数 普通科2単位 理数科2単位

1. 目標

1. 文法などの言語材料を実際のコミュニケーションにおいて効果的に活用できる技能を身に付ける。
2. スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなどの言語活動を通して、話すことと書くことを中心とした発信力を強化する。

2. 使用教材と用途

テキスト関連			
FACTBOOK	FACTBOOK マイノート	FACTBOOK Grammar ワークブック	総合英語 FACTBOOK これからの英文法
			
授業で主に使う教科書。予習の必要あり。	授業の活動の際に用いる教材。予習の必要あり。	文法事項の復習用のワークブック。定期的に提出有り。Weekly Test 出題範囲。	自分で学習するのに使う文法書。Weekly Test 出題範囲。
Applications		教材記載の QR コード	
	本文や単語を聞いて、正しい英語の発音を習得したり、暗唱例文を覚えたりするために使いましょう。マイク付きイヤホン推奨。		教材に載っている QR コードを読み取り、音声を聞いたり、動画を視聴したりして理解を深めましょう。

3. 指導計画

		Contents	言語材料	言語活動	Weekly Test
1 学期	中間	UNIT 0 UNIT 1 UNIT 2	説明・紹介する 時を表す (現在・過去・未来) 時を表す (完了形)	Essay Writing Speech Conversation	
	期末	UNIT 3 UNIT 4	能力・許可・義務などを表す 依頼・勧誘や推量などを表す 「～される」を表す	Retelling Summarizing Debate	

2 学 期	中 間	UNIT 5 UNIT 6	「～すること」などを表す (to do) to do / do を使って表す 「～すること」を表す (doing)	Presentation * スケジュールは別紙	FACTBOOK * スケジュールは別紙
	期 末	UNIT 7 UNIT 8	doing / done を使って説明する(1) doing / done を使って説明する(2) 比較を表す		
3 学 期	学 年 末	UNIT 9 UNIT 10	人や物について説明する(who/which) 時や場所などについて説明する 仮定を表す		

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
読むこと		実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語の文章を正確に読解することができる。現代の問題など一般的な関心の高いトピックを扱った文章を読解することができる。	日常な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、情報や考えなどを文章からの確に読み取り、理解することができる。		小テスト 定期考査 課題考査 提出物等	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程の得点率
聞くこと		実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語での説明文や会話を適切に聞き取ることができる。	日常な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について、自然な速さの標準的な英語で話されていれば、母語話者同士の会話の要点を理解することができる。トピックが身近であれば、長い話や複雑な議論の流れを理解することができる。		小テスト 定期考査 課題考査 提出物等	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程の得点率
話すこと	① やり取り ② 発表	実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語で発表したり、会話したりすることができる。	読んだり聞いたりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを、適切に話すことができる。自分が学んだトピックや自分の興味や経験の範囲内のトピックなら、抽象的なトピックであっても、議論することができる。また、ディベートなどにおいて、論拠を並べ自分の主張を明確に述べることができる。	他者を尊重し、聞き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを話すことで表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	パフォーマンステスト 提出物 行動観察等	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程の得点率
書くこと		実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付け、外国語で文章を書くことができる。幅広い語彙や複雑な文構造をある程度使って、エッセイやレポートなどを書くことができる。	読んだり聞いたりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを、適切に書くことができる。情報や議論を整理しながら、それに対する自分の考えの根拠を示した文章を書くことができる。	他者を尊重し、聞き手に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の意見や考えなどを書くことで表現しようとしている。言語やその背景にある文化に対する関心を持って、自律的、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	定期考査 課題考査 提出物等	該当問題を十分満足できる得点率	該当問題をおおむね満足できる得点率	該当問題について努力を要する程の得点率

8 家庭科

「家庭基礎」

①家庭基礎学習の意義・目的

大宮北高校の家庭科は皆さんの「生活者としての自立」を目標にしています。

さて、みなさんは「生活者」ということを意識して日々を過ごしていますか？

「はい、家族の一員として頑張っています」という人もいれば「生活に関することはほとんど家族に任せっきりだな…」という人も多いのではないのでしょうか。

極端ですが、「今日数学やらなかったな」という日はあっても、「今日生活しなかったな」という日はないですね。

この教科は『毎日が勉強』です。衣食住、家族、経済…意識して生活し、手伝いなども進んでみましょう。

また家事をする時は、何をするか、どうやるか、自分で考え、自分で決めて実行します。

生活者として自立するということは「しっかりと自分自身と向き合い本当に大切なものを探せる」ことです。

たくさんの可能性を秘めた北高生の皆さん！

家庭科の知識や技術を習得することは勿論、自分の生き方につながると意識して取り組みましょう。

②授業の受け方

毎時間自己評価表に記入し学習のまとめをしましょう

欠席をしないこと。忘れ物をしないこと。私語を控え、課題や製作品等の提出期限を守りましょう。

もし、欠席や公欠等で授業を受けられなかったときは、自ら、その授業のワークシートを提出するなど、その授業の学習を達成するようにしましょう。

③学習方法

授業を大切に受け、その時間に学習したことはその時間内に理解しましょう。

日ごろから家事の手伝いをし、実践力をつけましょう。

特に、調理実習は、授業だけでなく自宅でも実践すると予習・復習になります。

科目名等	単位数	教科書名	副教材等
家庭基礎	2	家庭基礎 気づく力 築く未来 実教出版	2024最新生活ハンドブック資料&成分表
【到達目標】	① 生活者としての高校生になる。 ② 生活者として社会の中で考え行動できる。 ③ 豊かに生きるための基礎力を身につける。		
【学習上の留意点】	① 毎時間しっかり取り組み、何を学んだか振り返りをしましょう。 ② 家事を担当し、学んだことを実践しましょう。 ③ 出席を重視し、テストや実習は勿論、提出物もしっかり成し遂げましょう。		
月	テスト	進度(単元)	自己チェック項目
4月 ～ 5月	1学期 中間	第1章 これからの人生について考えてみよう 第2章 自分らしい生き方と家族 第6章 食生活をつくる	<input type="checkbox"/> 生涯発達と発達課題 <input type="checkbox"/> 自立 <input type="checkbox"/> 職業労働と家事労働 <input type="checkbox"/> 家族 <input type="checkbox"/> 栄養と食品
6月 ～ 7月	1学期 期末	第8章 住生活をつくる 第9章 消費行動を考える	<input type="checkbox"/> 食事の計画と調理 <input type="checkbox"/> 人間と住まい <input type="checkbox"/> 住まいの文化 <input type="checkbox"/> 住まいを計画する <input type="checkbox"/> 持続可能なライフスタイル *実習室の整備 <input type="checkbox"/> 夏休みの課題
9月 ～ 10月	2学期 中間	第7章 衣生活をつくる	<input type="checkbox"/> 生活小物の製作(衣服管理に必要な技術) <input type="checkbox"/> 人と衣服 <input type="checkbox"/> 衣服の素材 <input type="checkbox"/> 衣服の選択・管理
11月 ～ 12月	2学期 期末	第4章 高齢者とかかわる 第5章 社会とかかわる 第10章 経済的に自立する	<input type="checkbox"/> 高齢社会 <input type="checkbox"/> 福祉 <input type="checkbox"/> 暮らしと経済 <input type="checkbox"/> 将来のライフプランニング *実習室の整備
1月 ～ 3月	3学期 学年末	第3章 子どもとかかわる	<input type="checkbox"/> 子どもとは・子どもの発達 <input type="checkbox"/> 子どもの生活・子どもをはぐくむ <input type="checkbox"/> 子どものための社会福祉 *実習室の整備

※ テストや提出物では、使用する文言は**教科書の表記**を基本とします。漢字や単語を大切にしましょう。

※ **夏休みの宿題として“ホームプロジェクト”**を実施し、そのレポート提出があります。

※ 上記の中に3～4回調理実習が入ります。(エプロン・三角巾・ふきん**2枚以上**を準備してください)

※ 教科書と一緒に購入してもらった“家庭科ノート”に記入する方法で学習を進めますが、

ワークシートなどを入れる透明のク A4クリアホルダーも用意してください。

※ 定期考査は、毎学期、期末考査を実施します。

観点別評価ルーブリック

教科
科目

家庭
家庭基礎

観点	目標	学習活動	A：「十分満足できる」	B：「おおむね満足できる」	C：「努力を要する」
知識・技能	生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・実習等 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当問題80%以上程度の得点率 ・安全や衛生に十分留意し工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当問題50%以上80%未満程度の得点率 ・ねらいを理解し的確に進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当問題50%未満程度の得点率 ・進め方に改善が求められる。
思考・判断・表現	生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習等 ・各種ワークシート ・作品製作 ・ノート ・夏休みの課題 ・ホームプロジェクト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを正しく解釈し、さらにその知識を活用し、よりよく表現できている。 ・具体例を想像するなど他の生活場面等で活用できる程度に習得している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習で理解したことを表現できている。 ・問題意識を持って習得に努力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の理解に不十分なところが見受けられ、改善が望まれる。 ・表現が不十分で伝わりにくいところがある。
学主体的に取り組む態度	よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家族、地域の生活を創造し、実践しようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの課題 ・ホームプロジェクト ・各種自己評価表 ・ノート ・実習等レポート ・行動観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画性をもって着実に各種課題に取り組んでいる。 ・単元ごとに、気づき(発見)や疑問を見いだし後の課題としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画性をもって各種課題に取り組んでいる。 ・学習したことを整理できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種課題に取り組むにあたって計画性が求められる。 ・学習したことを整理することに工夫が求められる。

令和6年度 第1学年 STEAMS TIME I (2単位) 年間実施計画

2クラス1講座で授業を展開し、各講座を7人の先生が担当します。

情報 I	<p>必修科目「情報 I」の代替として実施します。</p> <p>「情報 I」の内容は「STEAMS TIME III」でも学びます。</p> <p>探究活動の基本となるリテラシーを学びます。</p>
BEST CLaSS	<p>ネイティブ教員が担当する英語の授業です。</p> <p>Basic English Skills Training Communicative Learning and Successful Strategies</p> <p>英語を用いた発表能力を高めます。</p>
課題研究	<p>課題研究の基礎となるプログラムを実施します。</p> <p>基礎研究：課題研究を行うのに必要な知識、実験手法の習得 5つのラボと8つのゼミからゼミ・ラボを決定します。</p> <p style="text-align: center;"> ラボ 物理 化学 生物 地学 スポーツサイエンス 数学 国語 英語 家庭生活 情報 ゼミ 地歴公民 芸術 福島復興 </p>

年間授業計画(予定)

	1学期	2学期	3学期	年間
	9週	10週	6週	25週
情報 I	9時間	2時間	4時間	15時間
BEST CLaSS	4時間	8時間	3時間	15時間
課題研究	5時間	10時間	5時間	20時間

各学期の評価は出ません。

年間を通しての3段階の観点別評価と5段階の評定が出ます。

課題におけるプロセス、成果物、発表等について、評価します。

※ 高い成果を生みだせる人の行動特性（**コンピテンシー**）を本校の校訓「自主・自律・創造」に照らし合わせ、それらの力の成長を評価していきます。

自主 課題発見力、探究する力、プレゼンテーション能力
コミュニケーション能力

自律 他者と議論する力、周りを巻き込む力、共創力

創造 プロジェクト作成力、新しい価値を生み出す力
批判的思考力・創造的思考力

※ 与えられた材料や情報などを正しく理解・分析し、活用する能力（**リテラシー**）をどのように身につけ、高められたかを評価していきます。

情報リテラシー
与えられた情報を収集・分析し、活用する能力。

コンピュータリテラシー
パソコンや携帯など、IT機器を使用して情報を収集する知識や能力。

ネットリテラシー
インターネットに関連した知識全般における能力。インターネットを正しく利用するための知識や、活用能力はもちろんのこと、SNSなどによるトラブル回避能力なども含まれます。

メディアリテラシー
情報の発信源となるテレビ、新聞、ラジオ、雑誌、インターネットといったメディアから集めた膨大な情報を整理して主体的に読み解く能力や、メディアそのものを利用する能力。

ビジネスリテラシー
ビジネス全般に共通して必要とされる知識や能力。主に。コミュニケーション能力や対人スキル、物事の筋道を立てて考えることのできる思考能力のことを指します。

課題前には具体的なルーズブリックが提示されます。ルーズブリック評価を確認し、思考力や創造力など、どのような力を身に付けたかを意識して課題に取り組んでください。

課題の取り組み状況に対し、個々の達成度、主体的に取り組んでいるか、自己の課題等について実施されるアンケート等も評価対象となります。